

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月25日
【事業年度】	第33期（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）
【会社名】	株式会社エー・アンド・デイ
【英訳名】	A&D Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役執行役員社長 古川 陽
【本店の所在の場所】	東京都豊島区東池袋三丁目23番14号 （同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	埼玉県北本市朝日一丁目243番地
【電話番号】	（048）593-1111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 伊藤貞雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第29期 平成18年 3月	第30期 平成19年 3月	第31期 平成20年 3月	第32期 平成21年 3月	第33期 平成22年 3月
(1) 連結経営指標等					
売上高 (百万円)	31,225	34,767	34,541	32,181	28,651
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	3,192	3,418	2,265	1,767	1,355
当期純利益又は当期純損失( ) (百万円)	1,935	2,348	1,015	2,263	2,237
純資産額 (百万円)	17,399	19,618	19,720	14,135	12,110
総資産額 (百万円)	38,787	46,752	43,585	40,858	37,138
1株当たり純資産額 (円)	784.06	877.02	881.26	701.69	600.05
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額( ) (円)	89.73	105.73	45.54	107.06	111.25
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	87.59	103.41	44.76	-	-
自己資本比率 (%)	44.9	41.8	45.1	34.5	32.5
自己資本利益率 (%)	13.1	12.7	5.2	13.4	17.1
株価収益率 (倍)	29.31	20.48	21.56	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,057	1,395	3,004	2,216	2,157
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,936	4,716	2,277	3,566	1,284
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,211	4,325	665	1,560	942
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	4,975	3,271	3,041	2,898	2,846
従業員数 (人)	2,073	2,700	2,890	2,957	3,036
(外、平均臨時雇用者数)	(223)	(250)	(223)	(225)	(211)

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	平成18年 3月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月
(2) 提出会社の経営指標等					
売上高 (百万円)	27,073	29,063	26,626	23,583	17,766
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	2,963	3,226	386	1,221	2,245
当期純利益又は当期純損失( ) (百万円)	1,906	2,072	210	1,627	2,646
資本金 (百万円)	6,347	6,369	6,371	6,371	6,372
発行済株式総数 (千株)	22,120	22,311	22,325	22,325	22,331
純資産額 (百万円)	17,311	19,014	18,844	15,351	12,712
総資産額 (百万円)	35,748	41,708	38,412	35,938	31,758
1株当たり純資産額 (円)	780.09	852.71	844.58	763.27	631.91
1株当たり配当額 (円)	8.00	11.00	14.00	7.00	-
(うち1株当たり中間配当額)	(4.00)	(5.00)	(7.00)	(7.00)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額( ) (円)	88.34	93.30	9.44	76.97	131.55
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	86.23	91.25	9.28	-	-
自己資本比率 (%)	48.4	45.6	49.1	42.7	40.0
自己資本利益率 (%)	12.9	11.4	1.1	9.5	18.9
株価収益率 (倍)	29.77	23.20	103.98	-	-
配当性向 (%)	9.1	11.8	148.2	-	-
従業員数 (人)	567	600	628	646	665
(外、平均臨時雇用者数)	(80)	(79)	(90)	(98)	(99)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第30期より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。

3. 第32期及び第33期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

4. 第32期及び第33期の株価収益率及び配当性向については、当期純損失が計上されているため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和52年 5月	電子計測器の製造・販売を目的として(株)エー・アンド・デイ設立(資本金 42百万円) 本社を東京都練馬区に、工場を埼玉県北本市に置く
昭和54年 5月	東京都渋谷区に本社を移転
昭和56年 5月	埼玉県鴻巣市に工場(現・鴻巣工場)を移転
昭和57年 6月	研精工業(株)(現・連結子会社)の株式取得により子会社化、電子天秤事業に進出
昭和57年 8月	米国にA&D ENGINEERING, INC.(現・連結子会社)を設立、北米・中南米の販売拠点とする
昭和60年 6月	リトラ(株)(現・連結子会社)を設立、ロードセル・電子はかりの製造工場とする
昭和62年 1月	(株)タケダメディカルと一手販売契約を締結、デジタル血圧計の販売を開始
昭和62年12月	オーストラリアのMERCURY WEIGHING AND CONTROL SYSTEMS PTY. LTD.(現・連結子会社 A&D Australasia Pty Ltd.)の株式取得により子会社化、オセアニアの拠点とする
平成元年 5月	(株)タケダメディカルを合併
平成元年 8月	埼玉県北本市に開発・技術センターを開設、鴻巣工場の研究開発機能を移管
平成 2年 4月	医療機器の開発子会社として(株)エー・アンド・デイ・システムを設立
平成 2年 9月	東京都豊島区に本社を移転
平成 2年12月	韓国にA&D KOREA Limited(現・連結子会社)を設立
平成 3年 5月	英国にA&D INSTRUMENTS LIMITED(現・連結子会社)を設立、欧州拠点とする
平成 5年 5月	(株)オリエンテック(現・連結子会社)と業務提携、同社の販売代理権を得て試験機・ロードセルの販売を開始
平成 6年 6月	台湾にA&D SCIENTECH TAIWAN LIMITED(現・持分法適用関連会社)を設立
平成 7年10月	I S O 9 0 0 1 認証取得
平成 8年 1月	韓国のHANA Instruments Co.,Ltd.(現・連結子会社 A&D SCALES CO., LTD.)の株式をA&D KOREA Limited(現・連結子会社)が取得することにより子会社化
平成 8年 9月	(株)オリエンテック(現・連結子会社)の株式取得により子会社化
平成14年10月	中国に愛安徳電子(深?)有限公司(現・連結子会社)を健康機器の製造拠点として設立
平成15年 4月	ジャスダック市場に株式を上場
平成15年 8月	リトラ(株)(現・連結子会社)の株式取得により完全子会社化
平成16年10月	(株)オリエンテック(現・連結子会社)の株式取得により完全子会社化
平成17年 1月	(株)エー・アンド・デイ・システムを吸収合併し医療機器の開発を強化
平成17年 2月	東京証券取引所 市場第二部に上場
平成17年 4月	米国にA&D TECHNOLOGY INC.(現・連結子会社)を設立
平成17年 6月	研精工業(株)(現・連結子会社)の株式取得により完全子会社化
平成17年 8月	A&D TECHNOLOGY INC.がMTS Systems Corporation社からPowertrain Technology部門を買収
平成18年 3月	東京証券取引所 市場第一部に指定
平成18年 7月	ロシアにA&D RUS CO., LTD.(現・連結子会社)を設立
平成19年10月	中国に愛安徳技研貿易(上海)有限公司(現・連結子会社)を設立
平成20年 2月	インドにA&D INSTRUMENTS INDIA PRIVATE LIMITED(現・連結子会社)を設立
平成20年 3月	(株)ホロン(現・持分法適用関連会社)の株式取得により関連会社化
平成20年 8月	ドイツにA&D Europe GmbH(現・連結子会社)を設立
平成20年10月	(株)サム電子機械(現・連結子会社)の株式取得により完全子会社化
平成21年 1月	(株)ベスト測器(現・連結子会社)の株式取得により完全子会社化

### 3【事業の内容】

当社グループは当社（㈱エー・アンド・デイ）及び当社の子会社18社並びに関連会社2社で構成され、計測・計量機器及び医療・健康機器の製造・販売を主たる業務としております。

当社グループの事業内容及び各社の当該事業に係る位置づけは次のとおりであります。

なお、次の事業は「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記」に掲げる事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

#### （1）計測・計量機器事業

主な製品は計測・制御・シミュレーションシステム、半導体露光装置向け電子銃及びA/D・D/A変換器、試験機、環境計測機器、電子天秤、台秤、インジケータ、カウンティングスケール、ロードセル等であります。

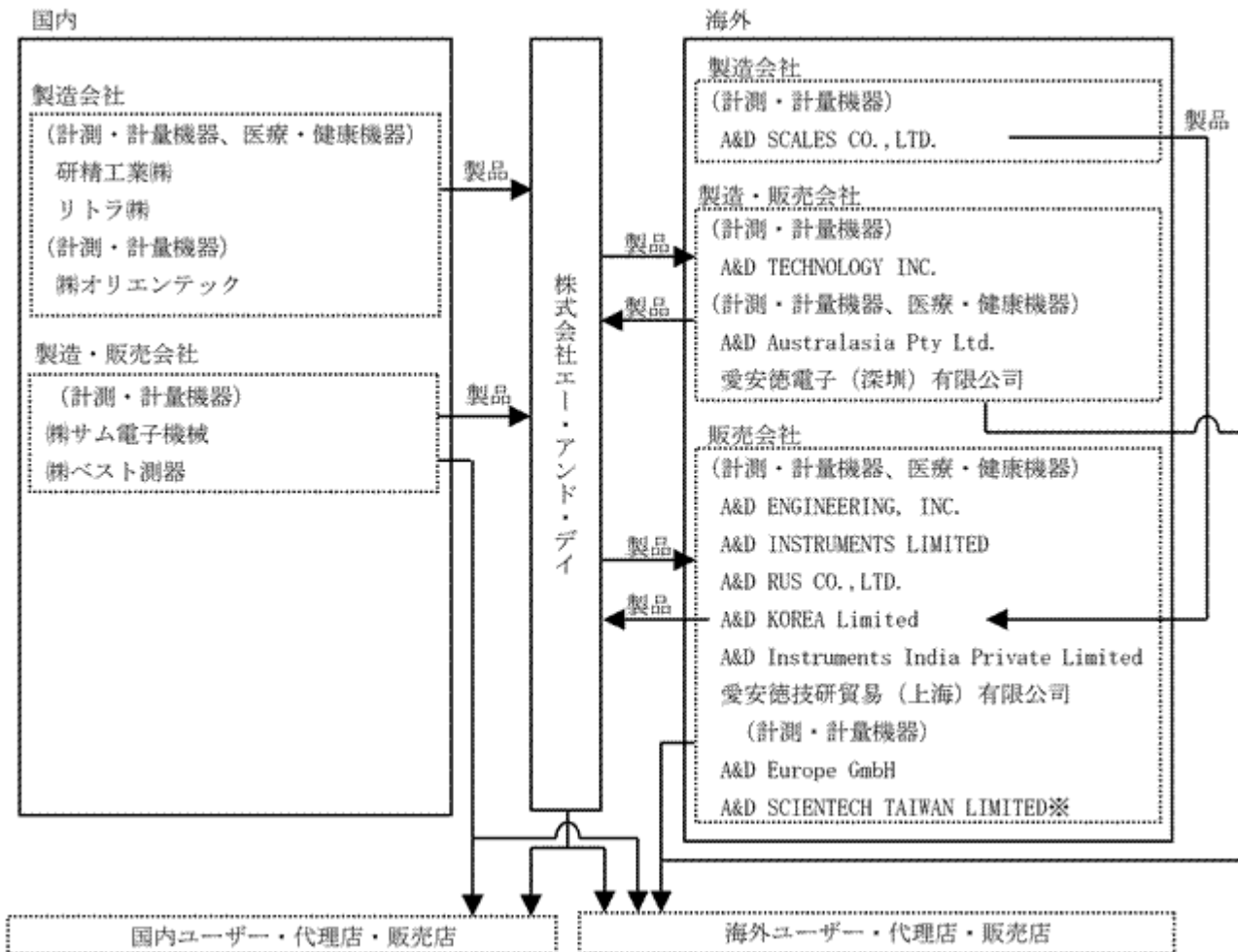
当事業は、当社が製造・販売するほか、国内においては、㈱サム電子機械及び㈱ベスト測器が製造・販売、研精工業㈱、リトラ㈱及び㈱オリエンテックが製造をしております。また、海外においては、A&D SCALES CO., LTD.及び愛安徳電子（深?）有限公司が製造、A&D Australasia Pty Ltd.及びA&D TECHNOLOGY INC.が製造・販売、A&D ENGINEERING, INC.他7社が販売をしております。

#### （2）医療・健康機器事業

主な製品は家庭用デジタル血圧計、血圧監視装置、全自動血圧計、精密体重計、超音波吸入器等であります。

当事業は、当社が製造・販売するほか、国内においては研精工業㈱及びリトラ㈱が製造をしております。また、海外においては愛安徳電子（深?）有限公司が製造・販売、A&D ENGINEERING, INC.他6社が販売をしております。

[事業系統図]



（注）1. 無印 連結子会社

関連会社で持分法適用会社

2. A&D MERCURY PTY. LTD.は平成21年8月25日付でA&D Australasia Pty Ltd.に社名変更しております。

3. 当社グループには上記事業系統図に記載されているほかに、持分法非適用非連結子会社2社及び持分法適用関連会社が1社あります。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 研精工業(株) (注)3	茨城県下妻市	百万円 81	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	100.0	当社電子天秤、医療機器を製造しています。役員の兼任があります。
リトラ(株) (注)3	埼玉県日高市	百万円 200	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	100.0	当社電子計量機器、医療機器を製造しています。役員の兼任があります。
(株)オリエンテック	埼玉県深谷市	百万円 268	計測・計量機器事業	100.0	当社試験機、電子計測機器を製造しています。役員の兼任があります。
A&D ENGINEERING, INC. (注)3, 4	アメリカ合衆国カリフォルニア州	千米ドル 200	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	100.0	当社電子計量機器、医療・健康機器を北中南米に販売しています。役員の兼任があります。
A&D AUSTRALASIA PTY. LTD.	オーストラリアサウスオーストラリア州	千豪ドル 5,720	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	100.0	当社電子計量機器の製造及び同製品の、医療・健康機器をオセアニアに販売しています。役員の兼任があります。
A&D INSTRUMENTS LIMITED	イギリスオックスフォード州	千英ポンド 1,800	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	100.0	当社計測・計量機器、医療・健康機器をヨーロッパに販売しています。役員の兼任があります。
A&D KOREA Limited	韓国ソウル特別市	百万韓ウォン 1,000	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	90.0	当社計測・計量機器、医療・健康機器を韓国に販売しています。役員の兼任があります。
A&D SCALES CO., LTD.	韓国忠清北道	百万韓ウォン 495	計測・計量機器事業	90.0 (90.0)	当社電子計量機器を製造しています。役員の兼任があります。
愛安德電子(深?)有限公司 (注)3	中国広東省	千香港ドル 45,000	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	100.0	当社健康機器及び電子計量機器の製造並びに健康機器の販売をしています。役員の兼任があります。
A&D TECHNOLOGY INC.	アメリカ合衆国ミシガン州	千米ドル 500	計測・計量機器事業	100.0	当社電子計測機器を開発、製造及び販売しています。役員の兼任があります。

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
A&D RUS CO.,LTD. (注) 3, 4	ロシア連邦 モスクワ市	千露ルーブル 505,247	計測・計量機器事 業、医療・健康機 器事業	100.0	当社電子計量機 器、医療・健康機 器をCISに販売し ています。役員の 兼任があります。
愛安德技研貿易(上 海)有限公司	中国 上海市	千米ドル 600	計測・計量機器事 業、医療・健康機 器事業	100.0	当社電子計測機 器、医療機器を中 国に販売していま す。役員の兼任が あります。
A&D INSTRUMENTS INDIA PRIVATE LIMITED	インド ハリアナ州	千印ルピー 55,000	計測・計量機器事 業、医療・健康機 器事業	100.0 (0.4)	当社電子計量機 器、医療・健康機 器をインドに販売 しています。役員 の兼任がありま す。
A&D Europe GmbH	ドイツ ダルムシュタッ ト市	千ユーロ 25	計測・計量機器事 業	100.0	当社電子計測機器 を欧州に販売して います。役員の兼 任があります。
(株)サム電子機械	東京都三鷹市	百万円 330	計測・計量機器事 業	100.0	各種試験装置を開 発、製造及び販売 しています。役員 の兼任がありま す。
(株)ベスト測器	京都府八幡市	百万円 20	計測・計量機器事 業	100.0	環境計測機器を開 発、製造及び販売 しています。役員 の兼任がありま す。
(持分法適用関連会 社) A&D SCIENTECH TAIWAN LIMITED (注) 5	台湾 台北市	千NTドル 20,000	計測・計量機器事 業	19.0	当社電子計量機器 を台湾に販売して います。役員の兼 任があります。
(株)ホロン (注) 6	埼玉県所沢市	百万円 692	計測・計量機器事 業	30.5	半導体検査装置の 開発、製造及び販 売をしています。 役員の兼任があり ます。

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。

2. 「議決権の所有割合」欄は、当該関係会社の議決権に対する当社の所有割合を記載しております。また、同欄の( )内は、子会社による間接所有の議決権の所有割合で、内数となっております。

3. 特定子会社に該当しております。

4. A&D ENGINEERING, INC. および A&D RUS CO., LTD. については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

	A&D ENGINEERING, INC.	A&D RUS CO., LTD.
主要な損益情報等		
(1)売上高	4,254百万円	5,549百万円
(2)経常利益	62百万円	404百万円
(3)当期純利益	36百万円	274百万円
(4)純資産額	1,056百万円	1,904百万円
(5)総資産額	1,810百万円	4,669百万円

5. 持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力をもっているため関連会社としたものであります。

6. 有価証券報告書を提出しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(人)
計測・計量機器事業	1,105 [150]
医療・健康機器事業	1,875 [57]
全社(共通)	56 [4]
合計	3,036 [211]

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は[ ]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
665 [99]	41.4	14.8	6,828,659

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は[ ]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループでは当社及び連結子会社である(株)オリエンテックに労働組合が存在しております。

当社の労働組合はエー・アンド・デイ労働組合と称し、平成22年3月31日現在における組合員数は522名、上部団体としては電機連合に加盟しており、(株)オリエンテックの労働組合はオリエンテック労働組合と称し、平成22年3月31日現在における組合員数は38名、上部団体には加盟しておりません。

なお、いずれも労使関係は安定しております。



## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国の金融危機に端を発した世界同時不況の影響により、上期は厳しい状況が続きましたが、下期は個人消費や設備投資に回復の遅れはあるものの在庫調整の進展や政府による景気刺激策の効果もあり、輸出や生産の増加などを要因として緩やかな回復基調で推移いたしました。海外においては、中国では景気の改善傾向は一段と加速しており、他のアジア諸国も景気は持ち直してまいりました。また、米国や欧州でも経済政策効果から景気低迷に下げ止まりが見られました。

このような状況の中、当社グループは、新製品を積極的に市場投入するとともに、新市場の開拓や新規顧客の獲得に尽力しております。また、新技術を応用したシステム製品の開発を推進し、自動車メーカーを中心に受注獲得に注力してまいりました。しかし、世界同時不況の影響が残る上期の業績は低迷し、下期には改善の兆しが見られたものの厳しい状況となりました。経費圧縮につきましては、販売費及び一般管理費を中心に固定費の削減にグループをあげて取り組んでまいりましたが、売上の大幅な減少をカバーするには至りませんでした。

この結果、当連結会計年度の売上高は28,651百万円（前年同期比11.0%減）、営業損失は1,321百万円（前年同期は営業損失147百万円）、経常損失は1,355百万円（前年同期は経常損失1,767百万円）、当期純損失は2,237百万円（前年同期は当期純損失2,263百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 計測・計量機器事業

計量機器事業は、国内においては、上期は設備投資の抑制や問屋等の在庫調整により、景気の影響を比較的受けにくい電子天秤や台秤についても売上が減少しましたが、下期には経済政策等の効果もあり電子天秤の売上は大幅に増加し、台秤等他の計量機器の売上についても回復が見られました。海外においては、円高や代理店の在庫調整の遅れが影響し、国内同様に上期は売上が大幅に減少しましたが、下期にはインジケータやロードセルを中心に回復が顕著に見られました。

計測機器事業は、前連結会計年度に子会社化した2社（株サム電子機械及び株ベスト測器）の売上が加わり増収となりましたが、設備投資抑制の影響から物性試験機や新規事業の計測・制御・シミュレーションシステム（DSPシステム）の大型物件が減少するなど、売上は低調な推移となりました。また、電子ビーム関連ユニットは、半導体市場に改善の兆しが見られるものの、未だ回復には至っておりません。

この結果、当セグメントの売上高は15,595百万円（前年同期比3.7%減）、営業損失は1,396百万円（前年同期は営業損失1,748百万円）となりました。

#### 医療・健康機器事業

健康機器事業は、家庭用血圧計の主要市場であるロシアにおいては、上期は代理店の在庫調整の遅れから大幅に売上が減少しましたが、下期は在庫調整も一巡し急激に回復いたしました。また、米国においては、経済情勢が未だ不透明ではありますが、新製品の投入等が寄与し売上は堅調に推移いたしました。

医療機器事業は、携帯型血圧計やベッドサイドモニタ等一部製品が景気低迷の影響から売上は減少しましたが、新規に開拓している中国向け市場の売上増が貢献し底堅く推移いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は13,056百万円（前年同期比18.3%減）、営業利益は1,254百万円（前年同期比55.3%減）となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 日本

前連結会計年度中に子会社化した2社の売上が加わったものの設備投資の抑制によりDSPシステムや物性試験機等大型物件の売上が減少し、また、計量機器は下期においては前年度を上回りましたが上期の問屋等の在庫調整の影響から、売上は減少となりました。

営業利益は、研究開発費の圧縮、販売費及び一般管理費の節減に努めたものの、主としてロシア現地法人向け売上の減少が影響し大幅減益となりました。

この結果、売上高は14,340百万円（前年同期比5.2%減）、営業損失は1,979百万円（前年同期は営業損失1,041百万円）となりました。

#### 米州

新規事業のDSPシステムは、上期は大手自動車メーカーの破綻の影響から売上が低迷しておりましたが、米国政府による次世代電気自動車の製造支援策等により大口案件が動き出したため、下期から急激に回復してまいりました。一方、既存事業については、新製品投入の効果もあり現地通貨ベースでは計測・計量機器、医療・健康機器ともに増加となりましたが、円高の影響により本邦通貨ベースでは減少となりました。

営業利益は、販売費及び一般管理費の節減に努めたものの、価格競争による値下げの影響もあり減益となりました。

この結果、売上高は5,947百万円（前年同期比6.0%減）、営業利益は72百万円（前年同期比64.9%減）となりました。

#### 欧州

ロシアでは、上期には代理店の在庫調整の影響により売上が低迷していましたが、下期からは急激に回復してきております。しかし、上期の落ち込みは余りにも大きく、また、ロシア通貨ルーブルの下落もあり、当連結会計年度における売上は大幅な減少となりました。英国では、テレメディシン向け血圧計や体重計の出荷が好調に推移しましたが、景気後退の影響から計測・計量機器の出荷が未だに低調であり、また、ロシア同様円高の影響により売上は減少となりました。

営業利益は、ロシア現地法人及び英国現地法人での経費削減の成果もあり大幅な増益となりました。

この結果、売上高は6,229百万円（前年同期比30.2%減）となり、営業利益は276百万円（前年同期比123.5%増）となりました。

#### アジア・オセアニア

新規に開拓している中国市場では医療・健康機器が、インドでは宝石市場向けに電子天秤の販売が順調に拡大しております。また、韓国では景気が持ち直したことにより計量機器の売上が堅調に推移するとともに、全自動血圧計の売上は減少したものの新市場における家庭用血圧計の販売が好調で、売上は大幅増加となりました。オーストラリアでは、医療・健康機器、計測・計量機器共に底堅く推移しました。

営業利益は、上期のロシア向け血圧計の不振から中国子会社での血圧計製造が減少したことにより大幅減益となりました。

この結果、売上高は2,134百万円（前年同期比19.0%増）、営業利益は59百万円（前年同期比83.6%減）となりました。

（注）事業の種類別セグメント及び所在地別セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおりません。

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動によるキャッシュ・フローが2,157百万円のプラス、投資活動によるキャッシュ・フローが1,284百万円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローが942百万円のマイナス、資金に係る換算差額が17百万円発生した結果、当連結会計年度末における資金は、2,846百万円（前年同期比1.8%減）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、2,157百万円（前年同期比2.7%減）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失が1,402百万円、法人税等の支払額が341百万円あった一方で、減価償却費が1,558百万円、売上債権の減少が1,299百万円、たな卸資産の減少が1,641百万円あったことによるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1,284百万円（前年同期比64.0%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が731百万円、無形固定資産の取得による支出が420百万円あったことによるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、942百万円（前年同期は1,560百万円の獲得）となりました。これは主に長期借入れによる収入が1,695百万円あった一方で、長期借入金の返済による支出が2,563百万円あったことによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	
	生産高(百万円)	前連結会計年度比(%)
計測・計量機器事業	15,313	93.6
医療・健康機器事業	11,933	89.0
合計	27,246	91.5

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 実績には商品仕入を含んでおります。

### (2) 受注状況

当社グループは、原則として見込生産を行っておりますが、製品の一部(半導体関連製品におけるA/D・D/A変換器等)には受注生産を行っているものがあります。

受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)			
	受注高(百万円)	前連結会計年度比 (%)	受注残高 (百万円)	前連結会計年度比 (%)
計測・計量機器事業	5,306	93.1	2,229	67.9
医療・健康機器事業	1,589	90.7	451	95.1
合計	6,896	92.5	2,681	71.4

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。なお、セグメント間の取引は、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	
	販売高(百万円)	前連結会計年度比(%)
計測・計量機器事業	15,595	96.3
医療・健康機器事業	13,056	81.7
合計	28,651	89.0

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。なお、セグメント間の取引は、相殺消去しております。

### 3【対処すべき課題】

当社グループは、経済環境悪化の影響を受けて、当連結会計年度の上半期は業績が大幅な落ち込みとなりました。しかし、下半期に入ってから徐々に売上が回復し、また全社で取り組んできた経費の大幅削減や設備投資の凍結・絞り込み等の効果も現れ、営業黒字を確保できる水準まで業績が戻ってまいりました。今後も、引き続き経費の削減および生産技術の強化等のコストダウン推進により原価率改善を図り、経営体質の強化を着実に実行してまいります。

また、当社は研究開発主導型企業として市場競争力を高めるための技術開発及びアプリケーションの拡充に注力しておりますが、DSPシステムにつきましては、国内外の子会社との技術融合を図り、世界規模で更に市場領域を広げてまいります。電子ビーム関連ユニットにつきましては、DSP技術の応用による性能改善や半導体以外の市場開拓に取り組み、計量機器、医療・健康機器においてもDSP技術を応用した製品開発を推進してまいります。経営環境が大きく変化中、開発期間短縮や新製品投入の早期化を図ることによって、収益基盤の強化を図ってまいります。

### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 生産体制について

当社の生産形態は、人的資源をできるだけ設計開発に投入するため製造部門をなるべく自社内に保有せず関係会社及び外部の企業に生産委託する方式を採っており、製品の特徴等により最もその製品の生産に適した企業に委託することとしております。生産委託先は国内関係会社3社、海外関係会社4社であります。

現在、当社は生産量の拡大及びコスト競争力を高めるため、海外生産の強化を図っておりますが、平成22年3月期の製造高に占める海外生産比率は64.5%であり、計測・計量機器では43.2%、医療・健康機器では78.1%となっております。また、海外子会社との取引は外貨建てにて行っているため、今後の為替変動により当社業績に影響を与える可能性があります。

事業の種類別セグメント	製品群	生産委託先
計測・計量機器事業	計量機器	研精工業(株)、リトラ(株)、A&D SCALES CO., LTD. 愛安德電子(深?)有限公司、A&D Australasia Pty Ltd.
	計測機器	(株)オリエンテック、A&D TECHNOLOGY INC.
医療・健康機器事業	医療機器	研精工業(株)、リトラ(株)
	健康機器	愛安德電子(深?)有限公司

#### (2) 経営成績の変動について

##### 輸出比率が高いことについて

当社の売上高に占める輸出比率は平成21年3月期：54.1%、平成22年3月期：48.0%となっておりますが、円建て取引を基本としつつも、主力となる海外関係会社A&D ENGINEERING, INC.、A&D Australasia Pty Ltd.及びA&D INSTRUMENTS LIMITEDは各現地通貨建て、A&D KOREA Limited、A&D RUS CO., LTD.は米ドル建てとしている他、一部の販売先は外貨建て取引としております。そのため、当社の経営成績は為替相場の変動によっては影響を受けることがあります。

また、当社では製品及び部品の外貨建輸入に取り組んでおり、為替リスクの緩和に努めております。

なお、当社の売上高に占める輸出高の割合は下表のとおりであります。

	平成21年3月期	平成22年3月期
売上高	23,583百万円	17,766百万円
内輸出高 (輸出比率)	12,765百万円 (54.1%)	8,532百万円 (48.0%)
内外貨建輸出高 (外貨建比率)	11,045百万円 (46.8%)	6,976百万円 (39.3%)
米州	3,058百万円	3,075百万円
欧州	7,267百万円	3,309百万円
アジア・オセアニア	719百万円	590百万円

(注) 各表の区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

米州.....アメリカ、カナダ等

欧州.....イギリス、ドイツ、ロシア等

アジア・オセアニア.....韓国、台湾、香港、オーストラリア等

借入金等への依存について

当社グループは、設備資金及び運転資金を主として借入金によって調達しており、負債・純資産合計に占める長期借入金及び短期借入金の割合は、平成21年3月期：47.1%、平成22年3月期：49.1%と高い比率で推移しております。

このため、市場金利が上昇した場合、支払い金利が増加することにより当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 販売体制について

当社の販売方法は直販ではなく代理店等を経由した販売を主としており、代理店より直接ユーザへ、又は更に二次販売店等を経由してユーザへ製品を供給しております。このような販売方法において市場シェアの確保、ひいては当社業績を向上させていくためには販売先（代理店・販売店及びエンドユーザ）の理解と協力は必要不可欠なものであります。加えて当社は計測・計量機器事業及び医療・健康機器事業を事業内容としておりますが、いずれの業界へもその参入は後発であり、先発企業と互してなおかつシェアを獲得していくために、販売先に対し、機会損失防止策としての販売先在庫の推進、加えて、先方の予算及び資金事情等へも対応することがあり、売掛金の回収までの期間が長期化する可能性を内包しております。

また、前述の販売先在庫については、その動向と状況の確認・把握に努めており、在庫回転率を高めるため売れ筋製品との交換により返品された製品は、新品再生の手続きの後、他へ販売しておりますが、当社在庫が増加する可能性があります。

### (4) 研究開発について

当社グループが手掛ける「はかる」技術は「産業のマザーツール」と言われており、常に最新の高度技術が要求され、それに対応するために研究開発を続ける必要があります。現在の研究開発は主として当社の設計開発本部において推進しておりますが、当連結会計年度における研究開発費の総額は4,215百万円、連結売上高に対する比率は14.7%であり、研究開発主導型企業として研究開発に積極的に資源を投入しております。当社グループにおける研究開発は計測・計量機器、医療・健康機器と計測分野に展開し、全て事業化を目的としておりますが、事業化に至らない可能性、事業化までに時間を要する可能性もあります。

### (5) 法的規制について

当社グループの事業は国内においては計量法及び薬事法、海外においてはEU指令（EU Directives：欧州連合閣僚理事会指令）、FDA/QSR（Food and Drug Administration/Quality System Regulation：米国厚生省食品医薬品局品質システム規則）及びCMDCAS（Canadian Medical Device Conformity Assessment System：カナダ医療機器適合評価システム）により規制を受けております。

計量法は、計量器のうち、取引や証明における計量に使用される蓋然性の高いもの、又は一般消費者の用に供されているもの（体温計や血圧計）を「特定計量器」として定め、適正な計量の実施を確保するために種々の規制を設けております。このうち最も重要なものとしてあげられるのが検定制度で、これは取引又は証明に使用する特定計量器を製造、修理又は輸入する場合、その構造（性能及び材料の性質を含む）等が法で定める基準に適合しているかを1台ずつ検査し可否を確認するものであります。また、型式の同一な計量器を製造するときには、構造についての検査項目を事前に試験し、合格したものは、検定時に構造検査を省略できる型式承認制度や最終の検定を製造事業者の自主検査に任せる指定製造事業者制度があります。指定製造事業者は、製造した特定計量器が法で定める基準に適合することを自ら判定できるわけですから、厳重な管理体制が求められますが、当社グループでは質量計第一類、血圧計第一類の認証を取得しております。

薬事法では、医療機器の製造販売を行おうとするものは製造販売業の許可を都道府県知事より受けなければなりません。また、医療機器の製造・修理・販売を行おうとするものは、更に製造業・修理業・販売業の許可を都道府県

知事より受ける必要があります。薬事法は市場での安全性をより高めるため、厚生労働省令により製造販売業に安全管理体制（GVP省令）、品質システム（GQP省令）の設置を求めています。また、製造業には製造管理及び品質管理の基準に関する省令（QMS省令）により、製造業としての品質システムの構築が要求されています。当社グループでは当社の開発・技術センターに製造販売業を置き、医療機器の販売拠点である本社・営業所には販売業、開発・技術センターおよびグループ企業における医療機器製造部門並びに修理部門では製造業及び修理業を取得しております。更に海外生産拠点においては、厚生労働大臣認定の外国製造業者を取得しております。なお、品目ごとの販売許可を第三者認証機関による審査を受け取得しております。

EU指令（EU Directives：欧州連合閣僚理事会指令）は、欧州連合加盟国によって定められた地域法の一つであります。当社グループの製品はEU指令のうち低電圧指令、EMC（電磁両立性）指令及びMDD（医用機器）指令により規制を受けておりますが、該当する製品については、これらの安全規制に適合させCEマークを添付しております。

FDA/QSR及びCMDCASは米国内及びカナダ国内で医療機器を販売するために医療機器製造事業者が遵守しなくてはならない米国及びカナダの法律であり、米国及びカナダ国内外の製造事業者及び輸入業者に適用されます。当社グループではA&D ENGINEERING, INC.が米国及びカナダでの販売窓口になりFDA/QSR及びCMDCASの認可を受けております。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループは“はかる”を事業領域として様々な計測機器を開発しておりますが、顧客要求に応える機器開発及び未来を支える計測技術の追求を研究開発活動の基本としております。

現在の研究開発は主として当社の設計開発本部において推進しておりますが、研究開発スタッフは、当社グループ総従業員数の約11.6% 351名、当連結会計年度における研究開発費の総額は4,215百万円であり、セグメント別の研究開発の状況は次のとおりであります。

### (1) 計測・計量機器事業

当事業における研究開発スタッフは304名、当連結会計年度における研究開発費は3,368百万円であり、分野別の主要課題及び成果は次のとおりであります。

#### 計測・制御・シミュレーションシステム（DSPシステム）

DSPシステムは、計測・制御・シミュレーション・解析等が必要な様々な分野に応用が可能なフレキシブルなシステムであります。当連結会計年度は前期に引き続き製品ラインアップの強化及びアプリケーションシステムの充実に努めました。

まず、製品プラットフォームとしては、AD5410の後継となる高機能計測・制御システムコントローラAD-Procyonの開発を完了しました。また、普及型の製品として前期に開発を完了したシングルボードLinuxコンピュータAD7011を組み込んだ様々な計測・制御端末を開発しました。

その他には、モーターHILS(Hardware in the Loop Simulation：モーター等の開発対象パーツ（実機）とコンピュータ上に作成したモデル（変速器、空気抵抗等の外部条件）をループ状に繋げてテストを行う事)の開発を引き続き行う一方、テストベンチ等の高レベルのノイズが発生する場所での信号計測に適した分散計測システム（フィールドバスI/Oシリーズ）AD7313の開発を終了しました。

#### 計測機器

計測機器については、カーボン繊維試験用横型引張試験機、1000 環境の高温加熱炉付き300kN引張試験機等を開発し、次世代の引張圧縮試験用解析ソフトTACTを先行リリースとして複数の客先に納入しました。

DSP应用の特殊試験機では、タイヤ抵抗解析のための高速ランボーン摩耗試験機、車のステアリング伝導系の耐久試験を行うステアリング試験機等を開発しました。また、新たな分野としては、冷却水やエンジンオイルの温度を制御することによって、実際の走行環境下でエンジンのテストを行うことを可能とする熱交換器システムに取り組みました。

#### 半導体露光装置関連ユニット

電子ビーム関連ユニットでは、電子ビームの偏向制御用のアナログ回路(DAC：デジタル/アナログ変換器)及び電子ビーム等の発生装置であるビームユニットを取り扱っております。当連結会計年度においては、まずアナログ回路については、既に開発が終わって量産移管した17bit精度で25nsecのハイブリッドICアンプの更なる性能アップを図るため、17bit精度で15nsec以下のセトリング性能を持つアンプの開発に取り組みました。その結果、新たな半導体デバイスを用いることで、試作レベルでは目標数値を達成することができました。今後は、コンパクト化と量産レベルにおける15nsecのセトリング性能の達成を目指しております。

一方、ビームユニットについては、まずイオンビームユニットは、イオンビームで基板に物質を堆積させたり物質の削り出しを行う時にその作用を支援するためのガスを導入するため、装置への影響調査と信頼性向上を目指

した装置改良を行いました。また、この装置の光源であるイオン源の内製化も着手しており、将来的には既存顧客へのサービス部材として外販を目指してまいります。その他には、昨年より着手したSEM（電子顕微鏡）の基本部分の作成と性能向上のための改良を進めており、SEM専用の制御系電源類の開発も始めました。

#### 計量機器

計量機器については、コスト競争力の向上及びラインアップの拡充を目指して開発を進めております。当連結会計年度においては、電子天秤については、生産ライン用電子天秤AD-4212Cシリーズを開発・投入しました。従来機器に比べて高速応答性とコンパクト化を実現しており、リチウムイオン電池の製造過程等、新しいマーケットの開拓を目指しております。また、USB出力を標準装備したEJシリーズ、FZ-iシリーズの拡張として粉体・液体の計量に最適な防塵・防滴構造のFZ-iWPシリーズ、及びFZシリーズの拡張として宝石・貴金属の計量に特化したFZ-CTシリーズを開発・投入しました。

台秤については、高温・高水圧のスチームジェット洗浄に耐えるIP69K準拠のSWシリーズや継続的水没に耐えるIP68準拠で丸洗い可能なSC/SEシリーズ、他の製品としては、長時間操作が可能な0.1g及び1g表示の高精度コンパクトスケールHTシリーズ等を開発しました。

## (2) 医療・健康機器事業

当事業における研究開発スタッフは47名、当連結会計年度における研究開発費は846百万円であり、分野別の主要課題及び成果は次のとおりであります。

#### 医療機器

医療用血圧計につきましては、従来の血圧測定機能の他に気温・気圧を測定する機能を有するほか、様々なネットワークに接続可能な全自動血圧計TM2656VPWを製品化しました。また、看護業務用として軽量で携帯に便利な看護血圧計UA-704Aを製品化しました。

医療用計量機器につきましては、軽量化を図ったデジタル身長体重計AD-6350、及び患者の使い勝手を向上したチェアスケールAD-6031を製品化しました。

#### 健康機器

高齢化社会が引き起こす医療費の増加対策として、IT技術を応用して遠隔医療を可能とする医療ICT(Information Communication Technology)が、アメリカやヨーロッパ等の先進国を中心に検討されております。

当社は健康機器でいち早く遠隔医療向製品の開発を手がけており、数年前からBluetooth通信機能を内蔵した血圧計及び体重計を販売してきました。当連結会計年度においては、Bluetooth内蔵製品のコンティニユア規格（注）対応の血圧計UA-772PBTと体重計UC-321PBTを製品化して発売を始めました。

また、市場が拡大する中国向けに新しく5機種 of 家庭用血圧計を開発して投入しました。日本国内においても、量販店向けに3種類の手首血圧計（UB-511LH、UB-512H、UB-329B）を製品化しました。

#### (注)コンティニユア規格

Continua Health Allianceが定めた健康機器の相互接続性を確保するための設計ガイドラインで、この設計ガイドラインを各メーカーが採用する事で、血圧計や体重計等の健康機器で異なるメーカーの製品を使用しているも、パソコンや携帯端末に接続してデータを取り込み一元管理が可能となります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表作成にあたりまして、当社経営陣は決算日における資産・負債の数値及び偶発債務の開示並びに報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積り及び仮定設定を行っております。また、経営陣は過去の実績や状況に応じ、合理的妥当性を有する要因に基づき見積り及び判断を行い、その結果は、他の方法では判定しにくい資産・負債の簿価及び収入・費用の報告数値についての判断の基礎としております。実際の結果は、見積り特有の不確実性が存在するため、これら見積りと異なる場合があります。

### (2) 財政状態の分析

#### (流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、24,092百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,269百万円減少いたしました。これは売上の落ち込みによる受取手形及び売掛金の減少が1,092百万円あったことと、在庫削減によりたな卸資産が1,446百万円減少したこと、さらに税効果会計に伴う繰延税金資産の取崩が600百万円あったことが主因となっております。

#### (固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は13,046百万円と前連結会計年度末に比べ450百万円減少いたしました。個々の要因は以下のとおりであります。

##### 有形固定資産

有形固定資産については新規設備投資を抑制した結果、減価償却費が設備投資額を上回ることとなり、前連結会計年度末に比べ315百万円減少いたしました。

##### 無形固定資産

無形固定資産についてはのれんの償却等により、前連結会計年度末に比べ140百万円減少いたしました。

##### 投資その他の資産

投資その他の資産は前連結会計年度末に比べ5百万円増加し、1,266百万円となっております。

#### (流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は21,152百万円と前連結会計年度末に比べ1,801百万円減少いたしました。これは、短期借入金及び1年内返済予定の長期借入金が合わせて913百万円減少したことが主因となっております。

#### (固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は3,875百万円と前連結会計年度末に比べ106百万円増加いたしました。これは退職給付引当金が147百万円増加したことが主因となっております。

#### (純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は12,110百万円と前連結会計年度末に比べ2,024百万円減少いたしました。これは、利益剰余金が2,237百万円減少した一方で、為替変動による為替換算調整勘定が174百万円減少したことが主因となっております。



### (3) キャッシュ・フローの分析

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、2,157百万円（前年同期比2.7%減）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失が1,402百万円、法人税等の支払額が341百万円あった一方で、減価償却費が1,558百万円、売上債権の減少が1,299百万円、たな卸資産の減少が1,641百万円あったことによるものであります。

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、製品製造のための材料・部品の購入、製造費、販売費及び一般管理費となっております。販売費及び一般管理費のうち主要な項目は人件費及び研究開発費であります。研究開発費は当社グループの持続的な発展に不可欠なものと認識しており、当連結会計年度では、4,215百万円の計上（売上高比14.7%）となっております。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資は将来の営業活動のキャッシュ・フローを増大させるための先行的な要素を持っており、従来からも投資効果を勘案の上、効率的な投入を優先しておりますが、当連結会計年度における投資活動により使用した額は1,284百万円（前年同期比64.0%減）となりました。これは主に、前連結会計年度においては連結の範囲の変更に伴う子会社株式取得による支出が2,181百万円、当連結会計年度においては有形固定資産の取得による支出が731百万円、無形固定資産の取得による支出が420百万円あったことによるものであります。

フリー・キャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローから投資活動によるキャッシュ・フローを控除したもの）は872百万円のプラスとなっております。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、942百万円（前年同期は1,560百万円の獲得）となりました。これは主に長期借入金による収入が1,695百万円あった一方で、長期借入金の返済に2,563百万円を使用したことによるものであります。

必要運転資金及び設備投資を含む投資資金は、基本的には内部資金又は金融機関からの借入金により対応しております。外部資金は、その用途の実態に合わせ、長期及び短期での調達となっております。平成22年3月期末では、長期借入金3,582百万円（1年内返済予定分含む）、短期借入金14,651百万円の構成となっており、有利子負債合計金額としては18,233百万円を計上しております。売上高対有利子負債比率は63.6%（前連結会計年度末は59.8%）となっております。

### (4) 経営成績の分析

#### (売上高)

当連結会計年度の当社グループの売上高は、世界同時不況の影響や円高の進行から、前連結会計年度に比べ11.0%減収の28,651百万円となりました。

計測・計量機器事業につきましては、新規事業のうち計測・制御・シミュレーションシステム（DSPシステム）は、前連結会計年度に好調だった米国においては当期も健闘した一方、国内においては前連結会計年度下期からの設備投資抑制等により大幅減収となりました。また、電子ビーム関連ユニットは、半導体市場に改善の兆しがみられるものの回復には至りませんでした。既存事業のうち、計測機器事業は前連結会計年度下期に新たに連結子会社化した(株)サム電子機械及び(株)ベスト測器の売上が加わったことにより増収となりましたが、計量機器事業は下期には回復が見られたものの設備投資抑制や代理店の在庫調整等による上期の不振が影響し減収となりました。その結果、計測・計量機器事業の売上高は、前連結会計年度に比べ3.7%減収の15,595百万円となりました。

医療・健康機器事業につきましては、医療機器事業はメディカル計量器の売上が増収となりましたが、携帯型血圧計やベッドサイドモニターが振るわず微減となりました。しかし、新たに開拓を進めている中国市場向け製品は好調な立ち上がりとなりました。健康機器事業は米国では売上が堅調に推移しておりますが、ロシアでは代理店の在庫調整と円高の影響が相まって大幅な減少となりました。その結果、医療・健康機器事業の売上高は、前連結会計年度に比べ18.3%減収の13,056百万円となりました。

#### (売上原価、販売費及び一般管理費)

売上原価率は売上減少に伴う稼働率の低下と取引通貨の米ドルに対する露ルーブルの下落により健康機器事業の原価率が悪化したこともあり、前連結会計年度に比べ5.3%上昇し57.4%となりました。

販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ13.0%減少し13,528百万円となりました。これは売上減少に伴う営業損失縮減のため人件費及び研究開発費の削減に取り組んだ結果であります。なお、研究開発費につきましては未だ高水準にありますが、これは当社グループの継続的な発展に不可欠な将来を見据えた投資と考えております。

(営業損失)

営業損失は、誠に遺憾ではございますが1,321百万円(前連結会計年度は147百万円の損失)となりました。医療・健康機器事業の営業利益は、前連結会計年度比55.3%減益の1,254百万円となりました。計測・計量機器事業の営業損失は1,396百万円(前連結会計年度は1,748百万円の損失)と赤字幅は縮小しましたが、その要因は販売費及び一般管理費の削減によるものであり、売上高自体を改善するには至りませんでした。なお、上記のセグメント別の営業損失の他、全社費用として1,180百万円(前連結会計年度比2.0%減)が発生しております。なお、計測・計量機器事業における損失の要因の一部は、新規事業に係わる研究開発投資によるものですが、特にDSPシステムは当社にとって将来の柱となる事業と位置付けており、先行的な投資と認識しており、収入と支出のバランスに十分注意して事業活動にあたる所存であります。

(経常損失)

経常損失は、為替差益が281百万円あったことなどにより営業外収益が517百万円発生し、支払利息が418百万円あったことなどから営業外費用が551百万円発生した結果、1,355百万円(前連結会計年度は1,767百万円の損失)となりました。

(当期純損失)

当期純損失は、税金等調整前当期純損失1,402百万円に法人税、住民税及び事業税253百万円が発生した他、繰延税金資産の取り崩しに伴い法人税等調整額569百万円を計上した結果、2,237百万円(前連結会計年度は2,263百万円の損失)となりました。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループにおいて新規事業として位置づける計測・計量機器事業のDSPシステムは、現在、主に自動車開発ツールとして展開しており、自動車産業の幅広いニーズに応えるべく、また、DSPシステムの更なる応用範囲の拡大のため、計測・計量機器事業を中心に全社管理部門への投資を含め、総額で790百万円の設備投資を実施いたしました。

計測・計量機器事業では、提出会社において製造用金型や開発・技術センターの計測・制御・シミュレーションシステムの実験設備などを取得したほか、国内子会社の(株)ベスト測器において事業基盤の安定化を目的とした土地・建物の取得を行い、578百万円の設備投資を実施いたしました。

また、医療・健康機器事業では、提出会社において開発・技術センターを中心とした新製品の開発、生産体制の整備などにより、210百万円の設備投資を実施いたしました。

上記に加えて、ソフトウェアの取得のために全社管理部門への投資を含め総額で404百万円の投資を実施いたしました。その内訳は、計測・計量機器事業において372百万円、医療・健康機器事業において17百万円であります。

なお、当連結会計年度において、生産能力に重要な影響を及ぼすような設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成22年 3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類別セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)				合計	従業員数 (人)
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	工具、器具及び備品	土地 (面積千㎡)		
本社 (東京都豊島区)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業、 全社統轄業務、管理業務	販売設備、 その他の設備	1	-	2	- (-)	4	83 [10]
開発・技術センター (埼玉県北本市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業、 全社統轄業務、管理業務	研究開発設備、製造設備、 その他の設備	1,443	187	559	1,589 (48)	3,779	461 [72]
鴻巣工場 (埼玉県鴻巣市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	製造設備	17	0	0	176 (4)	194	- [-]
東海事業所 (岐阜県多治見市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	研究開発設備、製造設備、 その他の設備	1	-	6	- (-)	7	31 [12]
大阪営業所 他5営業所、 3出張所	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	販売設備	9	-	3	58 (0)	72	90 [4]
厚生施設等 (埼玉県北本市、他)	全社	社員寮、その他の施設	175	-	0	700 (2)	876	- [1]

(2) 国内子会社

平成22年 3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	合計	
研精工業(株)	本社工場 (茨城県下妻市)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	製造設備	206	64	5	307 (21)	583	40 [49]
リトラ(株)	本社工場 (埼玉県日高市)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	製造設備 販売設備	157	6	2	244 (8)	411	35 [37]
(株)オリエンテック	本社工場 (埼玉県深谷市)	計測・計量機 器事業	製造設備	153	5	12	259 (16)	432	39 [9]
(株)サム電子機械	本社 (東京都三鷹市)	計測・計量機 器事業	研究開発設 備、 製造設備、 販売設備	19	1	19	143 (0)	184	44 [2]
(株)ベスト測器	本社工場 (京都府八幡市)	計測・計量機 器事業	製造設備 販売設備	64	28	4	77 (1)	175	45 [2]

(3) 在外子会社

平成22年 3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	合計	
A&D ENGINEERING, INC.	本社 (アメリカ合衆国カリフォルニア州)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	販売設備	4	7	21	- (-)	34	56 [4]
A&D AUSTRALASIA PTY. LTD.	本社工場 (オーストラリアサウスオーストラリア州)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	製造設備 販売設備	38	15	13	23 (1)	91	36 [-]
A&D INSTRUMENTS LIMITED	本社 (イギリスオックスフォード州)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	販売設備	-	9	2	- (-)	11	23 [1]
A&D KOREA Limited	本社 (韓国ソウル特別市)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	販売設備	92	3	25	21 (7)	143	54 [-]
A&D SCALES CO., LTD.	本社工場 (韓国忠清北道)	計測・計量機 器事業	製造設備	3	19	15	- (-)	37	100 [4]
愛安德電子(深?) 有限公司	本社工場 (中国深?市)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	製造設備	-	325	35	- (-)	360	1,334 [-]
A&D TECHNOLOGY INC.	本社 (アメリカ合衆国ミシガン州)	計測・計量機 器事業	研究開発設 備、 製造設備、 販売設備	390	47	31	142 (32)	611	87 [3]
A&D RUS CO.,LTD.	本社 (ロシア連邦モスクワ市)	計測・計量機 器事業、医療 ・健康機器事 業	販売設備	17	115	51	- (-)	184	451 [-]

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	合計	
愛安德技研貿易(上海)有限公司	本社 (中国上海市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	販売設備	-	-	12	- (-)	12	15 [-]
A&D INSTRUMENTS INDIA PRIVATE LIMITED	本社 (インドハリヤナ州)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	販売設備	2	5	1	- (-)	9	9 [-]

- (注) 1. 帳簿価額には建設仮勘定の金額を含んでおりません。また、金額には消費税等を含めておりません。  
 2. 上記のほか、提出会社にはソフトウェアが1,112百万円あります。  
 3. 従業員数の[ ]は、臨時従業員数を外書しております。  
 4. A&D SCALES CO., LTD.は、A&D KOREA Limitedより建物及び構築物を賃借しております。  
 5. 上記のほか、主要な資産の賃借及びリース設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	年間賃借及び リース料(百万円)
本社 (東京都豊島区)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	本社建物(賃借)	89
開発・技術センター (埼玉県北本市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業、 全社共通	ERPシステム、及び情報管理システム設備(リース)	51
東海事業所 (岐阜県可児市)	医療・健康機器事業	事業所建物(賃借)	22
大阪営業所 (大阪市東淀川区)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	営業所建物(賃借)	18

(2) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料 (百万円)
A&D ENGINEERING, INC.	本社 (アメリカ合衆国カリフォルニア州)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	本社建物(賃借)	36
A&D INSTRUMENTS LIMITED	本社 (イギリスオックスフォード州)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	本社建物(賃借)	13
A&D KOREA Limited	本社 (韓国ソウル特別市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	本社建物(賃借)	12
愛安德電子(深?)有限公司	本社工場 (中国深?市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	本社工場建物(賃借)	73
A&D RUS CO., LTD.	本社 (ロシア連邦モスクワ市)	計測・計量機器事業、医療・健康機器事業	本社、倉庫建物(賃借)	85

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループは、技術革新及び需要の動向に対処するため、新製品・新技術の開発、生産体制の整備、製品の品質・精度の向上、原価低減に必要な設備の新設を計画しております。設備計画は原則的にグループ各社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、当社を中心に調整を図っております。

なお、平成22年3月31日現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完了後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	開発技術センター (埼玉県北本市)	計測・計量機 器事業	研究開発設 備、製造設 備、その他の 設備	455	-	自己資金 及び借入 金	平成22年4 月	平成23年3 月	能力の増 加はなし
		医療・健康機 器事業	研究開発設 備、製造設 備、その他の 設備	175	-	自己資金 及び借入 金	平成22年4 月	平成23年3 月	能力の増 加はなし

(注) 1. 金額には消費税等を含めておりません。

2. 上記の他に当社において、ソフトウェアの取得のため計測・計量機器事業において332百万円の投資を計画しております。

#### (2) 重要な設備の除却等

生産能力に重要な影響を与える設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成22年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年6月25日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	22,331,500	22,331,500	東京証券取引所市場第一部	単元株式数は100 株であります。
計	22,331,500	22,331,500	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権(旧商法第280条ノ19の規定に基づく新株引受権、及び旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権)の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ19の規定に基づく新株引受権（ストック・オプション）に関する事項は、次のとおりであります。

平成13年6月28日定時株主総会決議

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	245,000(注)1,4	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	311(注)1	同左
新株予約権の行使期間	自平成16年4月11日 至平成23年6月27日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) (注)1	発行価格 311 資本組入額 156	同左
新株予約権の行使の条件	(注)2	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注)1. 発行数は、権利付与日後に当社が株式分割または株式併合を行う場合には、次の算式により未行使の新株引受権の目的たる株式の数を調整し、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割または併合の比率

発行価格は、権利付与日後に当社が時価を下回る払込金額で新株式を発行する場合には、次の算式により調整されます。

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新株発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

また、発行価格は、株式の分割または併合の場合にも適宜調整されます。ただし、発行価格は、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げます。

2. 権利を付与された者が、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合の退職により在籍しなくなった場合には、権利付与契約に定める条件により権利を行使することができるものとします。権利を付与された者が、権利行使期間の初日到来後に死亡した場合には、その相続人が新株引受権を相続することができるものとします。その他の条件は当社と被付与者との間で締結する契約に定めるところによるものとします。
3. 権利の譲渡、質入その他一切の処分は認められないものといたします。
4. 新株予約権の目的となる株式の数は非取得者（契約辞退者）の都合により権利を喪失した株数を減じております。



旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権（ストック・オプション）に関する事項は、次のとおりであります。

平成17年6月28日定時株主総会決議

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数(個)	1,913個	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	191,300(注)1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成17年9月1日 至平成47年8月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)(注)1	発行価格 1 資本組入額 1	同左
新株予約権の行使の条件	(注)2	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)3	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4	同左

(注)1. 発行数は、権利付与日後に当社が株式分割または株式併合を行う場合には、次の算式により未行使の新株予約権の目的たる株式の数を調整し、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てます。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割または併合の比率

また、上記のほか、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併またはその他の組織変更を行う場合においては、発行される株式の数は適切に調整されます。

2. 対象者は、当社の役員（取締役または監査役）を退任したときに限り、新株予約権を行使することができるものとします。ただしこの場合、対象者は、役員を退任した日の翌日（以下「権利行使開始日」という。）から当該権利行使開始日より10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができるものとします。ただし、新株予約権の一部または1個の新株予約権の一部を行使することはできないものとします。対象者が死亡した場合、対象者の相続人のうち、対象者の配偶者、子、一親等以内の直系尊属に限り新株予約権を行使することができるものとします。ただし、相続人は、当該役員が死亡した日の翌日から3ヵ月を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができるものとします。その他の条件は、当社と対象者との間で締結する契約の定めるところによるものとします。
3. 譲渡するときは当社取締役会の承認を要し、権利の質入れ、もしくはその他一切の処分をすることを認められないものといたします。
4. 当社が完全子会社となる株式交換または株式移転を行うときは、本新株予約権にかかる義務を、当該株式交換または株式移転により完全親会社となる会社に承継させるものといたします。ただし、当該株式交換に係る株式交換契約書または当該株式移転に係る株主総会決議において、当社と対象者との間で締結する契約の定める「承継される新株予約権の内容の決定方針」に掲げる事項が定められた場合に限り、

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万 円)	資本準備金残 高(百万円)
平成17年12月13日 (注)1	1,600	21,902	1,697	6,177	1,696	6,194
平成18年1月11日 (注)2	150	22,052	159	6,337	159	6,353
平成17年4月1日～ 平成18年3月31日 (注)3	68	22,120	10	6,347	10	6,364
平成18年4月1日～ 平成19年3月31日 (注)3	191	22,311	21	6,369	21	6,385
平成19年4月1日～ 平成20年3月31日 (注)3	14	22,325	1	6,371	1	6,387
平成21年4月1日～ 平成22年3月31日 (注)3	6	22,331	0	6,372	0	6,388

(注)1. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 2,231円

資本組入額 1,061円

払込金総額 3,393百万円

2. 第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 2,121円

資本組入額 1,061円

割当先 新光証券株式会社

3. 新株予約権の行使による増加であります。

## (6)【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	32	30	84	39	9	4,856	5,050	-
所有株式数(単元)	-	39,395	2,063	22,530	36,856	729	121,722	223,295	2,000
所有株式数の割合(%)	-	17.64	0.92	10.09	16.51	0.33	54.51	100	-

(注)自己株式2,213,107株は、「個人その他」に22,131単元及び「単元未満株式の状況」に7株を含めて記載しております。

## (7)【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)エー・アンド・デイ	東京都豊島区3-23-14	2,213	9.91
ビービーエイチ フォー フィ デリティー ロープライス ス トック ファンド(常任代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	40 WATER STREET, BOSTON MA 02109 U.S.A (東京都千代田区丸の内2-7-1)	1,744	7.81
(株)エー・アンド・デイ従業員持 株会	埼玉県北本市朝日1-243	1,653	7.40
(株)フルカワ	埼玉県さいたま市大宮区桜木町 4-331-3-1501	1,533	6.86
ビービーエイチ オツペンハイ マー クエスト インターナシ ヨナル バリュウ ファンド (常任代理人 (株)三菱東京UF J銀行)	6803 S TUCSON WAY CENTENNIAL COLORADO 80112392403 U.S.A(東京都千代田区丸の内 2-7-1)	1,183	5.30
日本スタートラスト信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	630	2.82
(株)埼玉りそな銀行	埼玉県さいたま市浦和区常盤7-4-1	606	2.71
ビービーエイチ オツペンハイ マー マスター インターナシ ヨナル バリュウ ファンド エ ルエルシー(常任代理人 (株)三 菱東京UFJ銀行)	6803 S TUCSON WAY CENTENNIAL COLORADO 80112392403 U.S.A(東京都千代田区丸の内 2-7-1)	501	2.24
古川 陽	埼玉県さいたま市大宮区	490	2.19
(株)足利銀行	栃木県宇都宮市桜4-1-25	490	2.19
計	-	11,046	49.47

(注)1.上記日本スタートラスト信託銀行(株)(信託口)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は630千株であります。なお、それらの内訳は、年金信託勘定分454千株、投資信託勘定分104千株となっております。

2. フィデリティ投信(株)及びその共同保有者から、平成20年10月7日付で各社が連名で提出した大量保有報告書により、平成20年9月30日現在で1,773千株を共同保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
なお、フィデリティ投信(株)及びその共同保有者の大量保有報告書の内容は以下のとおりです。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門4-3-1	21	0.10
エフエムアール エルエル シー (FMR LLC)	82 Devonshire Street, Boston, Massachusetts 02109, USA	1,752	7.85
計	-	1,773	7.94

3. オppenハイマーファンズ・インクから、平成22年2月2日付で提出された大量保有報告書により平成22年1月26日現在で1,662千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
なお、Oppenハイマーファンズ・インクの大量保有報告書の内容は以下のとおりです。

大量保有者 オppenハイマーファンズ・インク  
住所 アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク、リバティー・ストリート225、ワ  
ールド・フィナンシャル・センター2  
保有株券等の数 株式 1,662千株  
株券等保有割合 7.45%

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,213,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,116,400	201,164	-
単元未満株式	普通株式 2,000	-	-
発行済株式総数	22,331,500	-	-
総株主の議決権	-	201,164	-

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
(自己保有株式) 株式会社エー・アンド・デイ	東京都豊島区東池 袋三丁目23番14号	2,213,100	-	2,213,100	9.91
計	-	2,213,100	-	2,213,100	9.91

( 9 ) 【ストック・オプション制度の内容】

平成13年6月28日定時株主総会において特別決議された新株予約権（ストック・オプション）の状況

決議年月日	平成13年6月28日
付与対象者の区分及び人数	取締役 6名 使用人 35名
新株予約権の目的となる株式の種類	(注)
株式の数(株)	(注)
新株予約権の行使時の払込金額	(注)
新株予約権の行使期間	(注)
新株予約権の行使の条件	(注)
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 新株予約権の内容については、「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

平成17年6月28日定時株主総会において特別決議された新株予約権（ストック・オプション）の状況

決議年月日	平成17年6月28日
付与対象者の区分及び人数	取締役 7名 監査役 2名
新株予約権の目的となる株式の種類	(注)
株式の数(株)	(注)
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)
新株予約権の行使期間	(注)
新株予約権の行使の条件	(注)
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)

(注) 新株予約権の内容については、「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

( 1 ) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 2 ) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	2,213,107	-	2,213,107	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社の利益配分につきましては、株主への利益還元が経営上の最重要施策のひとつと認識し、業績に応じた安定的な配当の実施を目指してまいりたいと考えております。現在は、健全な財務体質を確保し経営基盤を強化するとともに、積極的な事業展開や投資等により企業価値を一層高めることで株主への利益還元を行うこととし、内部留保の充実を中心に据えておりますが、連結配当性向につきましては10%以上を目処とすることを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、平成22年3月期決算において連結当期純損失を計上したことや今後の経営環境が不透明であることを総合的に勘案した結果、中間配当及び期末配当は見送りいたしました。

内部留保金につきましては、今後の市場ニーズ・技術革新に対応すべく開発・製造体制を強化する為に有効に活用したいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	2,800	3,050	2,365	1,167	649
最低(円)	1,091	2,020	746	202	220

(注) 最高・最低株価は、平成18年3月1日より東京証券取引所市場第一部におけるものであり、それ以前は同市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年10月	11月	12月	平成22年1月	2月	3月
最高(円)	444	408	350	379	349	407
最低(円)	378	296	302	321	307	326

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役執行役員社長		古川 陽	昭和18年 1月29日生	昭和40年 4月 石川島播磨重工業(株)入社 昭和42年10月 タケダ理研工業(株)(現 (株)アドバ ンテスト)入社 昭和52年 5月 当社設立 代表取締役社長 昭和60年 6月 リトラ(株)代表取締役社長(現 任) 平成 8年 9月 (株)オリエンテック代表取締役社 長(現任) 平成18年 6月 当社代表取締役 執行役員社長 (現任)	(注) 1	490
取締役常務執行役員	営業本部長	森島 泰信	昭和22年 9月 1日生	昭和45年 4月 タケダ理研工業(株)(現 (株)アドバ ンテスト)入社 昭和52年 5月 当社入社 昭和59年 7月 当社国内営業部長 昭和63年 7月 当社取締役(現任) 平成 2年 2月 当社営業本部副本部長 平成 9年 6月 当社営業本部長(現任) 平成18年 6月 当社常務執行役員(現任)	(注) 1	210
取締役常務執行役員	営業本部副本部長	江頭 昌剛	昭和22年 5月30日生	昭和50年 3月 二葉工業(株)入社 昭和55年 3月 当社入社 昭和59年 7月 当社外国部長 昭和60年 8月 A&D ENGINEERING, INC. 副社長 平成元年 6月 当社取締役(現任) 平成 2年 2月 当社営業本部副本部長(現任) 平成18年 6月 当社常務執行役員(現任)	(注) 1	58
取締役執行役員	品質・法務知財担当	行成 洋二	昭和18年 7月20日生	昭和41年 4月 タケダ理研工業(株)(現 (株)アドバ ンテスト)入社 昭和55年 6月 (株)タケダメディカル(平成元年 当社と合併)入社 昭和61年10月 同社取締役 平成元年 5月 当社取締役(現任) M E 事業部 長 平成 3年 4月 当社設計開発本部長 平成18年 6月 当社執行役員(現任) 平成19年 6月 当社品質・法務知財担当(現 任)	(注) 1	48
取締役執行役員	M E 事業本部長	中川 常雄	昭和18年 3月28日生	昭和40年 8月 (株)スズケン入社 昭和50年 8月 (株)日本コーリン入社 昭和63年 7月 コーリン電子(株) 代表取締役社長 平成元年 5月 日本コーリン(株) 取締役 平成10年 2月 日本コーリン(株) 監査役 平成18年 4月 当社M E 事業本部長(現任) 平成18年 6月 当社取締役 執行役員(現任)	(注) 1	-
取締役執行役員	中国生産担当	八坂 賢一郎	昭和22年 5月 9 日生	昭和43年 4月 タケダ理研工業(株)(現 (株)アドバ ンテスト)入社 昭和54年11月 (株)タケダメディカル(平成元年 当社と合併)入社 平成 5年 4月 当社設計開発本部第 2 部長 平成15年 1月 愛安德電子(深?) 有限公司総 経理(現任) 平成18年 6月 当社執行役員中国生産担当(現 任) 平成19年 6月 当社取締役(現任)	(注) 1	40

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役執行役員	第1設計開発 本部長	村田 豊	昭和24年5月27日生	昭和45年4月 タケダ理研工業(株)(現 株アドバ ンテスト)入社 昭和52年7月 当社入社 平成5年4月 当社設計開発本部副本部長 平成18年6月 当社執行役員(現任) 平成19年6月 当社取締役 第1設計開発本部長 (現任)	(注)1	86
常勤監査役		新井 参治	昭和22年1月16日生	平成9年6月 株あさひ銀行(現、株埼玉りそな 銀行)取締役 平成12年6月 同社 常務執行役員 平成13年9月 同社 専務執行役員 平成15年6月 昭栄保険サービス(株)(現、ジェイ アンドエス保険サービス(株))代 表取締役社長 平成16年4月 ジェイアンドエス保険サービス (株)代表取締役会長 平成19年6月 当社監査役 平成20年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)2	-
監査役		清水 昌信	昭和20年3月12日生	昭和45年4月 タケダ理研工業(株)(現 株アドバ ンテスト)入社 昭和46年2月 日本ミニ・コンピュータ(株)(現 アルファテック・ソリューショ ンズ(株))入社 平成2年11月 当社入社 平成13年6月 当社生産本部生産管理部長 平成18年6月 当社常勤監査役 平成20年6月 当社監査役(現任)	(注)2	-
監査役		大嶋 浩	昭和20年11月16日生	昭和44年4月 日本セメント(株)(現 太平洋セメ ント(株))入社 平成14年4月 太平洋マテリアル(株)取締役 平成17年3月 同社 常務取締役 平成19年6月 同社 専務取締役 平成21年6月 当社監査役(現任)	(注)3	-
計						934

- (注)1. 平成22年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から1年間  
2. 平成19年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
3. 平成21年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
4. 常勤監査役新井参治及び監査役大嶋浩は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
5. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。  
執行役員は13名(代表取締役及び取締役兼務の者を含む)で、構成は以下のとおりであります。
- 代表取締役執行役員社長 古川 陽  
取締役常務執行役員 営業本部長 森島 泰信、営業本部副本部長 江頭 昌剛、  
取締役執行役員 品質・法務知財担当 行成 洋二、ME事業本部長 中川 常雄、  
中国生産担当 八坂 賢一郎、第1設計開発本部長 村田 豊、  
執行役員 第2設計開発本部長 福沢 隆一、管理本部長 伊藤 貞雄、  
営業本部副本部長 高田 信吾、  
第2設計開発本部副本部長 高永 義男、  
機械設計本部長 古田 晴幸、生産本部長 板東 修身



## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

##### a. 企業統治の体制の概要

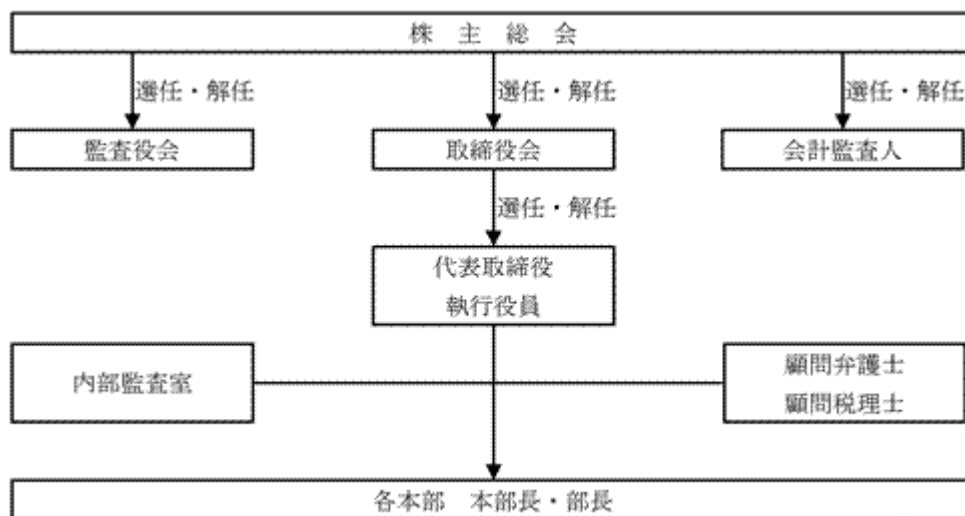
当社は、コーポレート・ガバナンスの充実が経営上の最も重要な課題のひとつであると認識しており、「自然界の情報を捉え活かすためのアナログとデジタルの変換技術を原点に、計測・制御技術を駆使したツールの提供によってお客様による新しい価値の創出を支援し、産業の発展と健康な生活に貢献する」という経営理念を実現するために、経営上の組織体制や仕組みを整備してコーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

当社は監査役制度を採用しており、機関として取締役会と監査役会を有し、業務執行機能を強化するため平成18年6月28日より執行役員制を採用しております。

まず、当社の経営は7名の取締役で構成された取締役会を事業運営の中核として位置づけており、経営方針、法令で定められた事項及びその他経営に関する重要事項を決定するとともに執行役員の業務の執行を監督しております。

監査役会は、監査役3名（内 社外監査役2名）で構成され、各監査役は、監査役会で定めた監査方針、業務の分担等に従い、取締役の職務執行の監査を行っております。

なお、当社の機関及び内部統制に関する体制は以下のとおりとなっております。



当期における取締役会は16回開催し、経営の基本方針その他重要事項を決定いたしました。監査役会は12回開催され、監査の方針・業務の分担等の決定、監査結果の協議等を行いました。

##### b. 企業統治の体制を採用する理由

当社の現在の企業統治の体制につきましては、意思決定の迅速化と経営に対するチェック機能を効果的に機能させる事を目的として構築しております。

なお、当社は社外取締役を選任しておりませんが、社内における意思決定に際しては、監査役が取締役会のほか執行役員会議、部長会議等の重要会議に出席し意見を述べており、経営の監視機能という点におきましては現状で十分機能していると考えております。

##### c. 内部統制システムの整備の状況

内部統制につきましては、効率的かつ適正な内部牽制が作用するよう、組織機構の編成や社内規程等の整備を図るとともに、内部監査や外部監査等を通じて業務の適切な運用や不正発生の防止に努めております。また、法務的課題やコンプライアンス等の事項につきましては、必要に応じて随時、顧問弁護士の指導を仰いでおり、適切な対処に努めております。

##### d. リスク管理体制の整備の状況

当社ではリスク管理に関する統括責任者としてリスク管理担当役員を任命し、リスク管理の総括部門は総務部とし、それぞれのリスクに応じて個別に責任部門を定めております。

また、全社的なリスク管理推進に関わる課題を審議するため、リスク管理委員会を設置するとともに、「リスク管理規程」に基づき総括管理を行い、各部門においてはそれぞれのリスクを管理するため、規程・マニュアル・ガイドライン等を制定し部門毎にリスク管理体制を構築しております。

e . 責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令が規定する額としております。

f . 会計監査の状況

会計監査につきましては、当社はあずさ監査法人により監査を受けておりますが、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別の利害関係はありません。当期において業務を執行した公認会計士は、同監査法人の福田厚氏及び栗栖孝彰氏であります。なお、当社に係る継続関与年数については、両氏共に7年以内であるため記載を省略しております。また、当社の会計監査業務に係る監査補助者は、公認会計士4名、会計士補等8名、その他5名をもって構成されております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査につきましては、内部監査規程に基づき社長直轄の内部監査室が、2名の専任体制で各部門及び当社グループ各社の業務活動全般を監査しております。

監査役監査につきましては、取締役会への出席や、業務・財産状況の調査等を通じて、取締役の職務遂行の監査を行うとともに、社内の重要会議にも積極的に参加し、取締役の職務執行のチェックに努めております。なお、監査役清水昌信氏は、平成2年から平成7年までの期間、当社の経理業務を担当しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

また、監査役監査・会計監査・内部監査の効率的な実施、情報交換、及び意見交換のために、監査役、会計監査人及び内部監査部門である内部監査室が年3回～4回の「三者会議」をもっており、必要に応じて相互に連携をとる体制としております。加えて、当社は全社的なリスク管理推進に関わる課題等を審議する為に、監査役及び内部監査室に加えて各リスクごとの部門責任者が出席するリスク管理委員会を設置しており、コンプライアンスの徹底とリスク低減に努めております。

社外取締役及び社外監査役

当社には社外取締役は就任しておらず、社外監査役は2名であります。

当社の社外監査役との間には人的関係、資本的關係、取引関係、その他の利害関係はなく、両名とも独立役員として客観的な見地からの経営監視が可能な立場にあり、会社からの独立性を維持していると考えております。

当社は社外取締役を選任しておりませんが、社内における意思決定に際しては、監査役が取締役会のほか執行役員会議、部長会議等の重要会議に出席し意見を述べており、経営の監視機能という点におきましては現状で十分機能していると考えております。

役員報酬等

a . 当期における役員報酬

当期における役員報酬の内容は以下のとおりです。

役員区分	報酬額の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる役員の員数 (人)
		基本報酬		
取締役 (社外取締役を除く。)	154	154		7
監査役 (社外監査役を除く。)	5	5		1
社外役員	13	13		3

(注) 1 . 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2 . 取締役の報酬限度額は、平成16年6月29日開催の第27回定時株主総会において月額1,400万円以内(ただし、使用人分給与は含まない)と決議いただいております。

3 . 監査役の報酬限度額は、平成18年6月28日開催の第29回定時株主総会において月額300万円以内と決議いただいております。

b. 役員の報酬等の算定方法の決定に関する方針

取締役が受ける報酬については、一定金額を報酬として定めることとし、その支給水準については取締役の職務の内容等を勘案して相当と思われる額としております。

また、賞与につきましては、平成19年6月27日開催の第30回定時株主総会において、従来の役員賞与にかえて業績に連動する報酬制度の設置を決議しております。本制度は、支給総額5億円を上限として業績連動報酬を損金経理する前の税金等調整前当期純利益（連結）の2%を決算数値確定後に一括で支給するものであり、詳細は以下のとおりです。

業績連動報酬制度の詳細

1. 配分方法 代表取締役1名あたり90、取締役1名あたり10とする比率で配分し、配分後の1万円未満の端数は切り捨てる。
2. 支給対象者 事業年度末に在籍する取締役で業務執行役員に該当する者
3. 支給時期 定時株主総会にて決算数値確定後1ヵ月以内に一括支給
4. 不支給要件 業績連動報酬を損金経理する前の税金等調整前当期純利益（連結）が10億円未満の場合

株式の保有状況

- a. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
20銘柄 127百万円
- b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
(株)チノー	38,646	9	安定的商業取引の維持
トラスコ中山(株)	3,700	5	安定的商業取引の維持
杉本商事(株)	5,750	5	安定的商業取引の維持
(株)りそなホールディングス	2,600	3	安定的資金取引の維持
(株)武蔵野銀行	909	2	安定的資金取引の維持
(株)電響社	3,218	1	安定的商業取引の維持
D I C(株)	5,000	1	他社事例情報の取得
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	2,000	0	安定的資金取引の維持
協立電機(株)	1,000	0	他社事例情報の取得
(株)島津製作所	1,000	0	他社事例情報の取得

- c. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

当社定款において定めている事項

- a. 取締役の定数  
当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。
- b. 取締役の選任の決議要件  
当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、ならびに累積投票によらない旨を定款に定めております。
- c. 取締役会で決議できる株主総会決議事項  
当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を可能とするためであります。  
当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨定款に定めております。これは、株主への安定的な利益配分を行うためであります。

d. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	45	5	50	-
連結子会社	-	-	-	-
計	45	5	50	-

【その他重要な報酬の内容】

当社の連結子会社であるA&D ENGINEERING, INC.、A&D RUS CO., LTD.、A&D Instruments India Private Limited、A&D Europe GmbHは、それぞれ当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMG LLP、ZAO KPMG、KPMG in India、KPMG AG Wirtschaftsprüfungsgesellschaftに対して、報酬を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

当社は、前連結会計年度において、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である投資に係る財務調査業務及び内部統制報告制度に関連するアドバイザー業務に関して委託し報酬を支払っております。

【監査報酬の決定方針】

会計監査人に対する報酬の額は、代表取締役が監査役会の同意を得て決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)及び当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の連結財務諸表並びに前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)及び当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、

- (1) 会計基準等の内容を適切に把握し、開示内容に反映できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、情報収集および外部研修への参加を随時行っております。
- (2) 上記のほか、会計基準に精通した外部コンサルティング会社と契約し、決算手続前において連結財務諸表の作成上重要な事項の把握および対応方法の検討を行い、かつ作成した連結財務諸表およびその注記事項の内容につき確認を受けております。

1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,673	3,787
受取手形及び売掛金	9,900	2 8,808
有価証券	118	0
商品及び製品	5,616	4,669
仕掛品	4,178	3,595
原材料及び貯蔵品	2,258	2,341
繰延税金資産	707	107
その他	1,152	1,127
貸倒引当金	243	344
流動資産合計	27,361	24,092
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 6,447	2 6,591
減価償却累計額	3,574	3,790
建物及び構築物（純額）	2,873	2,801
機械装置及び運搬具	2,419	2,517
減価償却累計額	1,295	1,675
機械装置及び運搬具（純額）	1,124	842
工具、器具及び備品	5,297	5,556
減価償却累計額	4,340	4,725
工具、器具及び備品（純額）	957	831
土地	2 3,667	2 3,745
リース資産	-	61
減価償却累計額	-	2
リース資産（純額）	-	58
建設仮勘定	37	64
有形固定資産合計	8,659	8,344
無形固定資産		
のれん	1,156	979
商標権	1,219	1,222
ソフトウェア	1,156	1,180
その他	43	52
無形固定資産合計	3,575	3,435
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 2 247	1, 2 354
長期貸付金	12	13
繰延税金資産	89	88
その他	1, 2 950	1, 2 856
貸倒引当金	39	45
投資その他の資産合計	1,260	1,266
固定資産合計	13,496	13,046
資産合計	40,858	37,138

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,407	2,380
短期借入金	2 14,803	2 14,651
1年内返済予定の長期借入金	2 2,174	2 1,412
リース債務	-	11
未払法人税等	110	86
賞与引当金	667	639
製品保証引当金	165	135
その他	2,624	1,833
流動負債合計	22,953	21,152
固定負債		
長期借入金	2 2,273	2 2,169
リース債務	-	49
退職給付引当金	1,206	1,354
製品保証引当金	-	16
負ののれん	13	-
その他	275	286
固定負債合計	3,769	3,875
負債合計	26,722	25,027
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,371	6,372
資本剰余金	6,387	6,388
利益剰余金	4,628	2,390
自己株式	1,565	1,565
株主資本合計	15,821	13,585
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2	18
為替換算調整勘定	1,705	1,531
評価・換算差額等合計	1,708	1,513
少数株主持分	22	38
純資産合計	14,135	12,110
負債純資産合計	40,858	37,138

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
売上高	32,181	28,651
売上原価	16,781	16,445
売上総利益	15,400	12,206
販売費及び一般管理費	1, 2 15,548	1, 2 13,528
営業損失( )	147	1,321
営業外収益		
受取利息	23	20
受取配当金	23	5
持分法による投資利益	-	27
為替差益	-	281
負ののれん償却額	13	13
助成金収入	-	77
その他	113	91
営業外収益合計	174	517
営業外費用		
支払利息	503	418
持分法による投資損失	184	-
売上割引	37	39
為替差損	895	-
その他	172	94
営業外費用合計	1,793	551
経常損失( )	1,767	1,355
特別利益		
固定資産売却益	3 0	3 2
貸倒引当金戻入額	3	-
退職給付制度改定益	2	-
特別利益合計	6	2
特別損失		
固定資産売却損	4 0	4 0
固定資産除却損	5 11	5 11
投資有価証券評価損	8	37
役員退職慰労金	5	-
特別損失合計	25	49
税金等調整前当期純損失( )	1,786	1,402
法人税、住民税及び事業税	147	253
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	93	-
法人税等調整額	414	569
法人税等合計	469	823
少数株主利益	7	11
当期純損失( )	2,263	2,237



【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	6,371	6,371
当期変動額		
新株の発行	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	6,371	6,372
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	6,387	6,387
当期変動額		
新株の発行	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	6,387	6,388
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	7,241	4,628
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	52	-
当期変動額		
剰余金の配当	296	-
当期純損失( )	2,263	2,237
当期変動額合計	2,560	2,237
当期末残高	4,628	2,390
<b>自己株式</b>		
前期末残高	10	1,565
当期変動額		
自己株式の取得	1,555	-
当期変動額合計	1,555	-
当期末残高	1,565	1,565
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	19,989	15,821
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	52	-
当期変動額		
新株の発行	-	1
剰余金の配当	296	-
当期純損失( )	2,263	2,237
自己株式の取得	1,555	-
当期変動額合計	4,115	2,235
当期末残高	15,821	13,585

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	10	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13	21
当期変動額合計	13	21
当期末残高	2	18
<b>為替換算調整勘定</b>		
前期末残高	337	1,705
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,368	174
当期変動額合計	1,368	174
当期末残高	1,705	1,531
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	326	1,708
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,382	195
当期変動額合計	1,382	195
当期末残高	1,708	1,513
<b>少数株主持分</b>		
前期末残高	57	22
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	34	16
当期変動額合計	34	16
当期末残高	22	38
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	19,720	14,135
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	52	-
当期変動額		
新株の発行	-	1
剰余金の配当	296	-
当期純損失（ ）	2,263	2,237
自己株式の取得	1,555	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,416	211
当期変動額合計	5,532	2,024
当期末残高	14,135	12,110

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失( )	1,786	1,402
減価償却費	1,683	1,558
のれん及び負ののれん償却額	45	135
商標権償却額	127	102
貸倒引当金の増減額( は減少)	185	92
退職給付引当金の増減額( は減少)	129	146
賞与引当金の増減額( は減少)	129	26
製品保証引当金の増減額( は減少)	3	9
受取利息及び受取配当金	47	26
支払利息	503	418
固定資産売却損益( は益)	0	1
固定資産除却損	11	11
売上債権の増減額( は増加)	3,272	1,299
たな卸資産の増減額( は増加)	1,579	1,641
仕入債務の増減額( は減少)	565	243
その他	433	866
小計	2,544	2,828
利息及び配当金の受取額	51	29
利息の支払額	496	427
法人税等の支払額	361	341
法人税等の還付額	478	69
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,216	2,157
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	414	910
定期預金の払戻による収入	798	825
有形固定資産の取得による支出	1,019	731
有形固定資産の売却による収入	6	15
無形固定資産の取得による支出	418	420
投資有価証券の取得による支出	2	1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2,181	-
関係会社株式の取得による支出	78	29
貸付けによる支出	218	53
貸付金の回収による収入	23	9
その他	60	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,566	1,284

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	4,490	71
長期借入れによる収入	1,652	1,695
長期借入金の返済による支出	2,731	2,563
株式の発行による収入	-	1
自己株式の取得による支出	1,555	-
リース債務の返済による支出	-	2
配当金の支払額	296	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,560</b>	<b>942</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	353	17
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	142	51
現金及び現金同等物の期首残高	3,041	2,898
現金及び現金同等物の期末残高	2,898	2,846

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項 目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 16社            主要な連結子会社名は、「第1企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。            A&amp;D Europe GmbHを当連結会計年度において新たに設立し、株式会社サム電子機械及び株式会社ベスト測器を当連結会計年度において株式取得により子会社化したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等            主要な非連結子会社            A&amp;D TRADING (HK) COMPANY LIMITED            A&amp;D TECHENG PTY. LTD.            (連結の範囲から除いた理由)            非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 16社            主要な連結子会社名は、「第1企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等            主要な非連結子会社            A&amp;D TRADING (HK) COMPANY LIMITED            A&amp;D TECHENG PTY. LTD.            (連結の範囲から除いた理由)            同左</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 2社            会社等の名称            A&amp;D SCIENTECH TAIWAN LIMITED            (株)ホロン</p> <p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社(A&amp;D TRADING (HK) COMPANY LIMITED, A&amp;D TECHENG PTY. LTD.)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。</p>	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 2社            会社等の名称            A&amp;D SCIENTECH TAIWAN LIMITED            (株)ホロン</p> <p>(2) 同左</p>
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>連結子会社のうち愛安德電子(深?)有限公司、A&amp;D RUS CO., LTD., 及び愛安德技研貿易(上海)有限公司の決算日は12月31日であります。</p> <p>なお、連結財務諸表の作成に当たっては、3月31日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。</p>	同左

項 目	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p>	<p>有価証券          その他有価証券          時価のあるもの          決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。</p> <p>時価のないもの          移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>たな卸資産          商品・製品・原材料・仕掛品          主として総平均法（仕掛品の一部は個別法）による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。</p> <p>貯蔵品          最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。</p> <p>(会計方針の変更)          通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。</p> <p>これにより、当連結会計年度の営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失が171百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>有形固定資産（リース資産を除く）          主として定率法によっております。なお、耐用年数については法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。</p>	<p>有価証券          その他有価証券          時価のあるもの          同左</p> <p>時価のないもの          同左</p> <p>たな卸資産          商品・製品・原材料・仕掛品          同左</p> <p>貯蔵品          同左</p> <p>有形固定資産（リース資産を除く）          同左</p>

項 目	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
(3) 重要な引当金の計上基準	<p>(追加情報)</p> <p>当社及び国内連結子会社の機械装置の耐用年数につきましては、法人税法の改正を契機として当連結会計年度より見直しを行っております。</p> <p>これにより当連結会計年度の営業損失、経常損失、税金等調整前当期純損失はそれぞれ15百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>無形固定資産(リース資産を除く)</p> <p>商標権については、見込有効期間(15年)に基づく均等償却によっております。</p> <p>自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法により、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売収益(見込有効期間5年)に基づく償却方法によっております。</p> <p>のれんについては5年間から15年間の均等償却を行っております。</p> <p>上記以外の無形固定資産については、定額法によっております。</p> <p>リース資産</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証の取決めのあるものについては、当該残価保証額)とする定額法を採用しております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>貸倒引当金</p> <p>債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金</p> <p>従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。</p>	<p>無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>リース資産 同左</p> <p>貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p>

項 目	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
(4) 重要な収益及び費用の 計上基準	<p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。</p>	<p>退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当連結会計年度より、「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。</p> <p>なお、これによる営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失に与える影響はありません。</p> <p>また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は51百万円であります。</p>
	<p>製品保証引当金 製品の無償補修費用の支出に備えるため、売上高に対する過去の支出割合に基づき必要額を計上しております。</p>	<p>製品保証引当金 同左</p> <p>売上高及び売上原価の計上基準 イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法） ロ その他の工事 工事完成基準 (会計方針の変更) 工事契約に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用していましたが、当連結会計年度より、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p>



項 目	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
(5) 重要なヘッジ会計の処理方法	<p>ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 また、為替予約について振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 金利スワップ、為替予約 ヘッジ対象 借入金の利息、外貨建営業債権債務、外貨建予定取引</p> <p>ヘッジ方針 為替の変動に伴う、キャッシュ・フローの変動リスクの軽減を目的に為替に係るデリバティブ取引を、金利の変動に伴う、キャッシュ・フローの変動リスクの軽減を目的に金利に係るデリバティブ取引を行っております。 実需に基づくものを対象としてデリバティブ取引を行っており、投機目的のデリバティブ取引は行っておりません。</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。 ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。</p> <p>また、通貨関連のデリバティブ契約の締結時に、リスク管理方針に従って外貨建による同一通貨、同一金額で同一期日の為替予約等をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。</p>	<p>これにより、売上高は322百万円増加し、営業損失、経常損失、税金等調整前当期純損失はそれぞれ132百万円減少しております。なおセグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>ヘッジ方針 同左</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>

項 目	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。	消費税等の会計処理 同左  連結納税制度の適用 同左
5 . 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同左
6 . のれん及び負ののれんの償却に関する事項	のれん及び負ののれんの償却については、5年間から15年間の均等償却を行っております。	同左
7 . 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。これにより52百万円を期首の利益剰余金から減算したことに伴い、利益剰余金と同額減少し、また当連結会計年度の営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失が18百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(リース取引に関する会計基準の適用)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用することになったことに伴い、当連結会計年度からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証の取決めのあるものについては、当該残価保証額)とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。これにより営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失に与える影響はありません。</p> <p>(外貨建の収益または費用の本邦通貨への換算基準)</p> <p>在外子会社等の収益及び費用は、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更は、在外子会社の収益費用の重要性が増してきたことに伴い、為替相場の変動による期間損益への影響を平準化することで損益情報を的確に把握し、会計期間を通じて発生する損益をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。これにより、営業損失が75百万円減少し、経常損失が90百万円、税金等調整前当期純損失が90百万円、それぞれ増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	

## 【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(連結貸借対照表)</p> <p>1. 「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ5,235百万円、3,233百万円、2,452百万円であります。</p> <p>2. 前連結会計年度まで無形固定資産の「その他」に含めて表示しておりました「のれん」は当連結会計年度において、資産の総額の100分の1を超えたため区分掲記しました。なお、前連結会計年度末の「のれん」は291百万円であります。</p> <p>(連結損益計算書)</p> <p>前連結会計年度まで営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取配当金」は当連結会計年度において、営業外収益の総額の100分の10を超えたため区分掲記しました。なお、前連結会計年度の「受取配当金」は1百万円であります。</p>	<p>(連結損益計算書)</p> <p>前連結会計年度まで営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「助成金収入」は当連結会計年度において、営業外収益の総額の100分の10を超えたため区分掲記しました。なお、前連結会計年度の「助成金収入」は0百万円であります。</p>

## 【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>従来、のれんのうち、米国連結子会社ののれんで、かつ、識別可能な無形固定資産以外の部分については、米国財務会計基準審議会基準書第142号の適用により償却を行っており、それ以外ののれんについては5年間の均等償却としておりましたが、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)の適用を受け、当連結会計年度より、米国連結子会社ののれんで、かつ、識別可能な無形固定資産以外の部分について、効果を発現すると見込まれる期間(15年)での均等償却を行っております。</p> <p>なお、これにより損益及び期首の利益剰余金に与える影響につきましては、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載してあります。</p>	

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)																																																																		
<p>1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">投資有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">142百万円</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産「その他」 (出資金)</td> <td style="text-align: right;">7百万円</td> </tr> </table> <p>2 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">担保資産</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">1,894百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">2,791百万円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">7百万円</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産「その他」</td> <td style="text-align: right;">73百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,768百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">担保付債務</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">4,798百万円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,542百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,499百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,840百万円</td> </tr> </table> <p>3 手形割引及び裏書譲渡高 受取手形割引高 30百万円</p> <p>4 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行13行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">当座貸越極度額の総額</td> <td style="text-align: right;">6,900百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">6,260百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">640百万円</td> </tr> </table>	投資有価証券(株式)	142百万円	投資その他の資産「その他」 (出資金)	7百万円	担保資産		建物及び構築物	1,894百万円	土地	2,791百万円	投資有価証券	7百万円	投資その他の資産「その他」	73百万円	合計	4,768百万円	担保付債務		短期借入金	4,798百万円	1年内返済予定の長期借入金	1,542百万円	長期借入金	1,499百万円	合計	7,840百万円	当座貸越極度額の総額	6,900百万円	借入実行残高	6,260百万円	差引額	640百万円	<p>1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">投資有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">205百万円</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産「その他」 (出資金)</td> <td style="text-align: right;">7百万円</td> </tr> </table> <p>2 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">担保資産</td> </tr> <tr> <td>受取手形及び売掛金</td> <td style="text-align: right;">30百万円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">1,890百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">2,871百万円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">3百万円</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産「その他」</td> <td style="text-align: right;">73百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,869百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">担保付債務</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">5,603百万円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">905百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,354百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,863百万円</td> </tr> </table> <p>3</p> <p>4 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行13行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">当座貸越極度額の総額</td> <td style="text-align: right;">6,300百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">5,360百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">940百万円</td> </tr> </table>	投資有価証券(株式)	205百万円	投資その他の資産「その他」 (出資金)	7百万円	担保資産		受取手形及び売掛金	30百万円	建物及び構築物	1,890百万円	土地	2,871百万円	投資有価証券	3百万円	投資その他の資産「その他」	73百万円	合計	4,869百万円	担保付債務		短期借入金	5,603百万円	1年内返済予定の長期借入金	905百万円	長期借入金	1,354百万円	合計	7,863百万円	当座貸越極度額の総額	6,300百万円	借入実行残高	5,360百万円	差引額	940百万円
投資有価証券(株式)	142百万円																																																																		
投資その他の資産「その他」 (出資金)	7百万円																																																																		
担保資産																																																																			
建物及び構築物	1,894百万円																																																																		
土地	2,791百万円																																																																		
投資有価証券	7百万円																																																																		
投資その他の資産「その他」	73百万円																																																																		
合計	4,768百万円																																																																		
担保付債務																																																																			
短期借入金	4,798百万円																																																																		
1年内返済予定の長期借入金	1,542百万円																																																																		
長期借入金	1,499百万円																																																																		
合計	7,840百万円																																																																		
当座貸越極度額の総額	6,900百万円																																																																		
借入実行残高	6,260百万円																																																																		
差引額	640百万円																																																																		
投資有価証券(株式)	205百万円																																																																		
投資その他の資産「その他」 (出資金)	7百万円																																																																		
担保資産																																																																			
受取手形及び売掛金	30百万円																																																																		
建物及び構築物	1,890百万円																																																																		
土地	2,871百万円																																																																		
投資有価証券	3百万円																																																																		
投資その他の資産「その他」	73百万円																																																																		
合計	4,869百万円																																																																		
担保付債務																																																																			
短期借入金	5,603百万円																																																																		
1年内返済予定の長期借入金	905百万円																																																																		
長期借入金	1,354百万円																																																																		
合計	7,863百万円																																																																		
当座貸越極度額の総額	6,300百万円																																																																		
借入実行残高	5,360百万円																																																																		
差引額	940百万円																																																																		

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1 販売費及び一般管理費の内主要な費目及び金額は次のとおりであります。	1 販売費及び一般管理費の内主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給料手当 4,107百万円	給料手当 3,648百万円
貸倒引当金繰入額 114百万円	貸倒引当金繰入額 100百万円
賞与引当金繰入額 212百万円	賞与引当金繰入額 191百万円
製品保証引当金繰入額 97百万円	製品保証引当金繰入額 113百万円
退職給付費用 167百万円	退職給付費用 185百万円
研究開発費 4,768百万円	研究開発費 4,215百万円
2 一般管理費に含まれる研究開発費 4,768百万円	2 一般管理費に含まれる研究開発費 4,215百万円
3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。	3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。
機械装置及び運搬具 0百万円	機械装置及び運搬具 2百万円
工具、器具及び備品 0百万円	工具、器具及び備品 0百万円
合計 0百万円	合計 2百万円
4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。	4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。
機械装置及び運搬具 0百万円	機械装置及び運搬具 0百万円
合計 0百万円	合計 0百万円
5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。	5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。
建物及び構築物 0百万円	機械装置及び運搬具 4百万円
機械装置及び運搬具 9百万円	工具、器具及び備品 6百万円
工具、器具及び備品 1百万円	合計 11百万円
合計 11百万円	

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式(注)	22,325	-	-	22,325
合計	22,325	-	-	22,325
自己株式				
普通株式	12	2,200	-	2,213
合計	12	2,200	-	2,213

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、自己株式立会外取引による増加2,200千株等によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月25日 定時株主総会	普通株式	156	7.00	平成20年3月31日	平成20年6月26日
平成20年11月7日 取締役会	普通株式	140	7.00	平成20年9月30日	平成20年12月10日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式(注)	22,325	6	-	22,331
合計	22,325	6	-	22,331
自己株式				
普通株式	2,213	-	-	2,213
合計	2,213	-	-	2,213

(注) 普通株式の株式数の増加は、新株予約権の行使によるものであります。

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																
<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">3,673百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td style="text-align: right;">118百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">3,791百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">893百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,898百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	3,673百万円	有価証券勘定	118百万円	合計	3,791百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	893百万円	現金及び現金同等物	2,898百万円	<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">3,787百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">3,787百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">940百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,846百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	3,787百万円	有価証券勘定	0百万円	合計	3,787百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	940百万円	現金及び現金同等物	2,846百万円												
現金及び預金勘定	3,673百万円																																
有価証券勘定	118百万円																																
合計	3,791百万円																																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	893百万円																																
現金及び現金同等物	2,898百万円																																
現金及び預金勘定	3,787百万円																																
有価証券勘定	0百万円																																
合計	3,787百万円																																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	940百万円																																
現金及び現金同等物	2,846百万円																																
<p>2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産および負債の主な内訳 株式の取得により新たに(株)サム電子機械及び(株)ベスト測器を連結したことに伴う連結開始時の子会社となった会社の資産及び負債の内訳並びに取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <p>(株)サム電子機械</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">858百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">284百万円</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">289百万円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">313百万円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">59百万円</td> </tr> <tr> <td>(株)サム電子機械の取得価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,059百万円</td> </tr> <tr> <td>(株)サム電子機械現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">200百万円</td> </tr> <tr> <td>(株)サム電子機械株式取得による支出</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">859百万円</td> </tr> </table> <p>(株)ベスト測器</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">1,923百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">68百万円</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">706百万円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">1,007百万円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">214百万円</td> </tr> <tr> <td>(株)ベスト測器の取得価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,476百万円</td> </tr> <tr> <td>(株)ベスト測器現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">154百万円</td> </tr> <tr> <td>(株)ベスト測器株式取得による支出</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,321百万円</td> </tr> </table>	流動資産	858百万円	固定資産	284百万円	のれん	289百万円	流動負債	313百万円	固定負債	59百万円	(株)サム電子機械の取得価額	1,059百万円	(株)サム電子機械現金及び現金同等物	200百万円	(株)サム電子機械株式取得による支出	859百万円	流動資産	1,923百万円	固定資産	68百万円	のれん	706百万円	流動負債	1,007百万円	固定負債	214百万円	(株)ベスト測器の取得価額	1,476百万円	(株)ベスト測器現金及び現金同等物	154百万円	(株)ベスト測器株式取得による支出	1,321百万円	2
流動資産	858百万円																																
固定資産	284百万円																																
のれん	289百万円																																
流動負債	313百万円																																
固定負債	59百万円																																
(株)サム電子機械の取得価額	1,059百万円																																
(株)サム電子機械現金及び現金同等物	200百万円																																
(株)サム電子機械株式取得による支出	859百万円																																
流動資産	1,923百万円																																
固定資産	68百万円																																
のれん	706百万円																																
流動負債	1,007百万円																																
固定負債	214百万円																																
(株)ベスト測器の取得価額	1,476百万円																																
(株)ベスト測器現金及び現金同等物	154百万円																																
(株)ベスト測器株式取得による支出	1,321百万円																																



## (リース取引関係)

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)				当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)			
1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引				1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 主として計測・計量機器事業における研究開発設備(機械装置及び運搬具)であります。 リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。			
所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。				所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。			
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置及び 運搬具	280	138	142	機械装置及び 運搬具	280	190	90
工具、器具及び 備品	191	103	88	工具、器具及び 備品	191	140	51
ソフトウエア	230	141	88	ソフトウエア	230	187	42
合計	702	383	319	合計	702	518	184
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。				同左			
(2) 未経過リース料期末残高相当額				(2) 未経過リース料期末残高相当額			
			134百万円				110百万円
			184百万円				74百万円
			合計 319百万円				合計 184百万円
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。				同左			
(3) 支払リース料及び減価償却費相当額				(3) 支払リース料及び減価償却費相当額			
			148百万円				134百万円
			減価償却費相当額 148百万円				減価償却費相当額 134百万円
(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左			

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
2. オペレーティング・リース取引 未経過リース料	2. オペレーティング・リース取引 未経過リース料
1年内 11百万円	1年内 5百万円
1年超 11百万円	1年超 4百万円
合計 23百万円	合計 10百万円

(金融商品関係)

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に経常運転資金について銀行借入により調達しております。一時的な余資は安定性の高い金融資産で運用し、また、デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は為替の変動リスクに晒されておりますが、外貨建ての債務をネットしたポジションについて注視し、ポジションが大幅に偏った場合等には先物為替予約を利用してヘッジしております。有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価額の変動リスクに晒されております。また、取引先企業に対し、長期貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、概ね外貨建ての債権残高の範囲内にあります。借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に経常的な企業活動に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で5年後であります。このうち一部は、外貨建て債権の為替変動リスクをヘッジする目的で外貨建てのものがおります。また、このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権について、売掛債権管理規程等に従い、営業管理部門が中心となって与信状況を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は、経理規程及び有価証券管理規程等に従い、金額及び投資対象を限定して運用することとしているため、信用リスクは限定的であります。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社及び一部の連結子会社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、必要と認める場合には先物為替予約を利用してヘッジを行います。なお、為替相場の状況により、3ヶ月を限度として、輸出に係る予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建営業債権に対する先物為替予約を行っております。

また、当社及び一部の連結子会社は、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクを抑制するため必要と認めるときは金利スワップ取引を利用します。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては取引先企業との関係を勘案して保有状況を見直しております。

デリバティブ取引については、取引権限や範囲等を定めたデリバティブ取引管理規程に基づき、半年ごとに取締役会に報告し、経理部において管理を行っております。連結子会社についても、同様のデリバティブ取引管理規程により、管理を行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）をご参照ください）。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	3,787	3,787	-
(2) 受取手形及び売掛金	8,808	8,808	-
(3) 投資有価証券			
関係会社株式	88	255	167
其他有価証券	47	47	-
資産計	12,731	12,898	167
(1) 支払手形及び買掛金	2,380	2,380	-
(2) 短期借入金	14,651	14,651	-
(3) 1年内返済予定の長期借入金	1,412	1,412	-
(4) 長期借入金	2,169	2,132	36
負債計	20,614	20,577	36

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金 (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金 (2) 短期借入金 (3) 1年内返済予定の長期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価については、元金合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
関係会社株式	116
其他有価証券	
非上場株式	101

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3) 投資有価証券」には含めておりません。

（注3）金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	3,787	-	-	-
受取手形及び売掛金	8,808	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
其他有価証券のうち				
満期があるもの				
債券(公債)	0	0	-	-
合計	12,595	0	-	-

（注4）長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照ください。

（追加情報）

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度

## 1. その他有価証券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

区分	種類	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計 上額(百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	8	13	4
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	8	13	4
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	22	18	4
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	22	18	4
合計		31	31	0

## 2. 時価評価されていない主な有価証券(平成21年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券	
MMF	118
非上場株式	129
非上場外国債券	0

## 3. その他有価証券のうち満期があるものの連結決算日後における償還予定額(平成21年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
1. 債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
(3) その他	-	0	-	-
2. その他	-	-	-	-
合計	-	0	-	-

## 当連結会計年度

## 1. その他有価証券(平成22年3月31日)

区分	種類	連結貸借対照表計 上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	27	8	19
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	27	8	19
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	19	23	3
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	19	23	3
合計		47	32	15

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額101百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
MMF	137	0	-
合計	137	0	-

## (デリバティブ取引関係)

前連結会計年度

## 1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
<p>(1) 取引の内容 利用しているデリバティブ取引は、先物為替予約取引及び金利スワップ取引であります。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、将来の為替・金利の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、通貨関連では外貨建営業債権債務の為替変動リスクを回避する目的で、また、金利関連では借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しております。なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。</p> <p>ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。</p> <p>また、為替予約について振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 金利スワップ、為替予約 ヘッジ対象 借入金の利息、外貨建営業債権債務、 外貨建予定取引</p> <p>ヘッジ方針 為替の変動に伴う、キャッシュ・フローの変動リスクの軽減を目的に為替に係るデリバティブ取引を、金利の変動に伴う、キャッシュ・フローの変動リスクの軽減を目的に金利に係るデリバティブ取引を行っております。</p> <p>実需に基づくものを対象としてデリバティブ取引を行っており、投機目的のデリバティブ取引は行っておりません。</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。</p> <p>ただし、特例処理によっているスワップについては、有効性の評価を省略しております。</p> <p>また、通貨関連のデリバティブ契約の締結時に、リスク管理方針に従って外貨建による同一通貨、同一金額で同一期日の為替予約等をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。</p>

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
<p>(4) 取引に係るリスクの内容 先物為替予約取引は為替相場の変動によるリスクを、金利スワップ取引は市場金利の変動によるリスクを有しております。なお、取引相手先は高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。</p> <p>(6) 取引の時価等に関する事項についての補足説明 取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p>

## 2. 取引の時価等に関する事項

期末残高がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)  
期末残高がないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社においては、確定給付型の制度として、適格退職年金制度または中小企業退職金共済及び退職一時金制度を採用しており、一部の海外連結子会社においては、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 (平成21年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (平成22年3月31日) (百万円)
(1) 退職給付債務	4,096	4,251
(2) 年金資産	2,166	2,722
(3) 未積立退職給付債務 (1)+(2)	1,930	1,528
(4) 未認識数理計算上の差異	723	173
(5) 連結貸借対照表計上額純額 (3)+(4)	1,206	1,354
(6) 退職給付引当金	1,206	1,354

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) (百万円)
退職給付費用	495	539
(1) 勤務費用	344	333
(2) 利息費用	69	72
(3) 期待運用収益(減算)	48	40
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	61	117
(5) その他	68	56

(注) 「(5) その他」は、主として確定拠出年金に係る要拠出額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
(1) 割引率(%)	2.0	2.1
(2) 期待運用収益率(%)	2.0	同左
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(4) 数理計算上の差異の処理年数(年)	10	同左



(ストック・オプション等関係)  
前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)  
ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成13年 ストック・オプション	平成17年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 6名 使用人 35名	当社取締役 7名 当社監査役 2名
ストック・オプション数	普通株式 267,000株	普通株式 245,800株
付与日	平成13年6月28日	平成17年8月19日
権利確定条件	当社普通株式が日本証券業協会への登録または取引所への上場その他取引所と類推される団体への登録もしくは上場等が行われること。	権利行使期間中、会社の役員(取締役または監査役)を退任したとき。
権利行使期間	平成16年4月11日 ~ 平成23年6月27日	平成17年9月1日 ~ 平成47年8月31日

(注) 対象勤務期間についてはその定めが無いため、記載を省略しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成13年 ストック・オプション(注)	平成17年 ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	-
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	251,000	191,300
権利確定	-	-
権利行使	-	-
失効	-	-
未行使残	251,000	191,300

(注) 平成16年11月19日付で1株を2株に株式分割しており、平成13年ストック・オプションについては分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	平成13年 ストック・オプション	平成17年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	311	1
行使時平均株価 (円)	-	-
公正な評価単価(付与日) (円)	-	-

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成13年 ストック・オプション	平成17年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 6名 使用人 35名	当社取締役 7名 当社監査役 2名
ストック・オプション数	普通株式 267,000株	普通株式 245,800株
付与日	平成13年6月28日	平成17年8月19日
権利確定条件	当社普通株式が日本証券業協会への登録または取引所への上場その他取引所と類推される団体への登録もしくは上場等が行われること。	権利行使期間中、会社の役員(取締役または監査役)を退任したとき。
権利行使期間	平成16年4月11日 ~ 平成23年6月27日	平成17年9月1日 ~ 平成47年8月31日

(注) 対象勤務期間についてはその定めが無いため、記載を省略しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成13年 ストック・オプション(注)	平成17年 ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	-
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	251,000	191,300
権利確定	-	-
権利行使	6,000	-
失効	-	-
未行使残	245,000	191,300

(注) 平成16年11月19日付で1株を2株に株式分割しており、平成13年ストック・オプションについては分割後の株式数に換算して記載しております。

## 単価情報

		平成13年 ストック・オプション	平成17年 ストック・オプション
権利行使価格	(円)	311	1
行使時平均株価	(円)	545	-
公正な評価単価(付与日)	(円)	-	-

## (税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産 (百万円)	繰延税金資産 (百万円)
たな卸資産 128	たな卸資産 169
未実現利益の消去 377	未実現利益の消去 322
貸倒引当金 42	貸倒引当金 65
投資有価証券 103	投資有価証券 118
未払費用 47	未払費用 50
未払事業税 8	未払事業税 8
賞与引当金 258	賞与引当金 243
製品保証引当金 43	製品保証引当金 37
退職給付引当金 468	退職給付引当金 523
税務上の営業権 72	税務上の営業権 56
連結納税加入による土地評価益 62	連結納税加入による土地評価益 50
繰越欠損金 549	繰越欠損金 1,072
その他 105	その他 137
繰延税金資産小計 2,267	繰延税金資産小計 2,855
評価性引当額 1,470	評価性引当額 2,606
繰延税金資産合計 797	繰延税金資産合計 249
繰延税金負債	繰延税金負債
連結納税加入による土地評価損 21	連結納税加入による土地評価損 21
圧縮記帳積立金 21	税務上の諸準備金 16
その他 43	その他有価証券評価差額金 2
繰延税金負債合計 86	その他 71
繰延税金資産の純額 710	繰延税金負債合計 111
	繰延税金資産の純額 137
繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。	繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。
(百万円)	(百万円)
流動資産 - 繰延税金資産 707	流動資産 - 繰延税金資産 107
固定資産 - 繰延税金資産 89	固定資産 - 繰延税金資産 88
流動負債 - 流動負債「その他」 42	流動負債 - 流動負債「その他」 11
固定負債 - 固定負債「その他」 43	固定負債 - 固定負債「その他」 46
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因
税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。	税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

最近2連結会計年度の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

	計測・計量 機器事業 (百万円)	医療・健康 機器事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	16,197	15,984	32,181	-	32,181
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
合計	16,197	15,984	32,181	-	32,181
営業費用	17,946	13,179	31,125	1,204	32,329
営業利益(又は営業損失)	1,748	2,805	1,056	(1,204)	147
資産、減価償却費 及び資本的支出					
資産	25,996	13,286	39,283	1,574	40,858
減価償却費	1,195	579	1,774	36	1,811
資本的支出	973	515	1,489	39	1,528

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

	計測・計量 機器事業 (百万円)	医療・健康 機器事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	15,595	13,056	28,651	-	28,651
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
合計	15,595	13,056	28,651	-	28,651
営業費用	16,991	11,801	28,793	1,180	29,973
営業利益(又は営業損失)	1,396	1,254	141	(1,180)	1,321
資産、減価償却費 及び資本的支出					
資産	22,772	12,824	35,597	1,541	37,138
減価償却費	1,154	479	1,634	25	1,660
資本的支出	948	242	1,191	17	1,209

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
計測・計量機器事業	計測・制御・シミュレーションシステム、音・振動解析装置、A/D・D/A変換器、電子銃、試験機、電子天秤、重量天秤、台秤、商業秤、個数計、計量システム、インジケータ、ロードセル等、油圧試験装置、排ガス計測機器等
医療・健康機器事業	家庭用デジタル血圧計、血圧監視装置、全自動血圧計、精密体重計、超音波吸入器等

3. 「消去又は全社」に含めた金額及び主な内容は以下のとおり。

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	主な内容
消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額	1,204	1,180	当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用
消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額	1,574	1,541	当社での余資運用資金（現金及び有価証券）及び管理部門に係る資産等

4. 減価償却費及び資本的支出には長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれております。

5. 会計方針の変更

(前連結会計年度)

(1) 棚卸資産の評価方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、計測・計量機器事業の営業費用は83百万円増加し、営業損失が同額増加しております。また、医療・健康機器事業の営業費用は87百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

(2) 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、計測・計量機器事業の営業費用は18百万円増加し、営業損失が同額増加しております。

(3) 在外子会社等の収益及び費用の換算方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、在外子会社等の収益及び費用は、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、計測・計量機器事業の売上高は503百万円増加し、営業費用は431百万円増加し、営業損失が71百万円減少しております。また、医療・健康機器事業の売上高は1,888百万円増加、営業費用は1,883百万円増加し、営業利益が4百万円増加しております。

(当連結会計年度)

(売上高及び売上原価の計上基準の変更)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を当連結会計年度より適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当連結会計年度の計測・計量機器事業の売上高が322百万円増加、営業費用が190百万円増加し、営業損失が132百万円減少しております。

6. 追加情報

(前連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社の機械装置の耐用年数につきましては、法人税法の改正を契機として当連結会計年度より見直しを行っております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、計測・計量機器事業の営業費用は11百万円増加し、営業損失が同額増加しております。また、医療・健康機器事業の営業費用は3百万円増加し、営業損失が同額増加しております。

【所在地別セグメント情報】

最近2連結会計年度の所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

前連結会計年度（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	15,134	6,326	8,927	1,793	32,181	-	32,181
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	9,504	85	8	7,406	17,005	(17,005)	-
合計	24,638	6,412	8,935	9,200	49,187	(17,005)	32,181
営業費用	25,680	6,205	8,811	8,835	49,533	(17,203)	32,329
営業利益（又は営業損失）	1,041	206	123	364	346	198	147
資産	38,906	3,656	6,212	4,127	52,902	(12,044)	40,858

当連結会計年度（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	14,340	5,947	6,229	2,134	28,651	-	28,651
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,721	66	7	4,980	10,776	(10,776)	-
合計	20,061	6,013	6,237	7,115	39,427	(10,776)	28,651
営業費用	22,041	5,941	5,960	7,055	40,998	(11,025)	29,973
営業利益（又は営業損失）	1,979	72	276	59	1,571	249	1,321
資産	34,390	3,270	5,058	4,734	47,453	(10,315)	37,138

(注) 1. 国または地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

米州.....アメリカ、カナダ等

欧州.....イギリス、ドイツ、ロシア等

アジア・オセアニア.....韓国、台湾、香港、オーストラリア等

3. 「消去又は全社」に含めた金額及び内容は、「事業の種類別セグメント情報」の「注3.」と同一であります。

4. 会計方針の変更

(前連結会計年度)

(1) 棚卸資産の評価方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用しております。この変更に伴い、従来の方によった場合に比べて、日本の営業費用は142百万円増加し、営業損失が同額増加しております。また欧州の営業費用は29百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

(2) 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方によった場合に比べて、米州の営業費用は18百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

(3) 在外子会社等の収益及び費用の換算方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、在外子会社等の収益及び費用は、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、米州の売上高は144百万円増加し、営業費用は137百万円増加し、営業利益が7百万円増加しております。また、欧州の売上高は1,951百万円増加し、営業費用は1,937百万円増加し、営業利益が14百万円増加しております。また、アジア・オセアニアの売上高は295百万円増加し、営業費用は626百万円増加し、営業利益が330百万円減少しております。なお、影響額のうちには特定の所在地に属さない消去又は全社に係るものが含まれるため、上記各所在地別の影響額の合計額と「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載された影響額とは差異を生じております。

(当連結会計年度)

(売上高及び売上原価の計上基準の変更)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号平成19年12月27日)を当連結会計年度より適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当連結会計年度の日本の外部顧客に対する売上高が322百万円増加、営業費用が190百万円増加し、営業損失が132百万円減少しております。

5. 追加情報

(前連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社の機械装置の耐用年数につきましては、法人税法の改正を契機として当連結会計年度より見直しを行っております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、日本の営業費用が15百万円増加し、営業損失が同額増加しております。

【海外売上高】

最近2連結会計年度の海外売上高は次のとおりであります。

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

	米州	欧州	アジア・オセアニア	計
海外売上高(百万円)	6,364	10,492	3,322	20,178
連結売上高(百万円)	-	-	-	32,181
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	19.8	32.6	10.3	62.7

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

	米州	欧州	アジア・オセアニア	計
海外売上高(百万円)	6,300	7,191	3,334	16,826
連結売上高(百万円)	-	-	-	28,651
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	22.0	25.1	11.6	58.7

(注) 1. 国または地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

米州.....アメリカ、カナダ等

欧州.....イギリス、ドイツ、ロシア等

アジア・オセアニア.....韓国、台湾、香港、オーストラリア等

3. 海外売上高は当社及び連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

4. 会計方針の変更

(前連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、在外子会社等の収益及び費用は、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、売上高は米州で144百万円、欧州で1,951百万円、アジア・オセアニアで295百万円増加しております。

(当連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号平成19年12月27日)を当連結会計年度より適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当連結会計年度の米州の売上高が322百万円増加しております。

(関連当事者情報)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関係当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員	古川 陽	-	-	当社代表取締役執行役員社長	(被所有)直接 2.4	金銭の貸付	金銭の貸付	100	短期貸付金	100
						利息の受取	利息の受取	0	未収利息	0

取引条件及び取引条件の決定方針

利率は市場金利を勘案し決定しております。なお、貸付に当たり担保の提供は受けておりません。

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号平成18年10月17日)を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関係当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員	古川 陽	-	-	当社代表取締役執行役員社長	(被所有)直接 2.4	金銭の貸付	金銭の貸付	100	短期貸付金	100
						利息の受取	利息の受取	2	未収利息	0

取引条件及び取引条件の決定方針

利率は市場金利を勘案し決定しております。なお、貸付に当たり担保の提供は受けておりません。

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。



( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 701円69銭	1株当たり純資産額 600円05銭
1株当たり当期純損失金額 107円06銭	1株当たり当期純損失金額 111円25銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	当連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額	14,135百万円	12,110百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	22百万円	38百万円
(うち少数株主持分)	(22百万円)	(38百万円)
普通株式に係る期末の純資産額	14,112百万円	12,071百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数	20,112千株	20,118千株

2. 1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり当期純損失金額		
当期純損失( )	2,263百万円	2,237百万円
普通株主に帰属しない金額	-百万円	-百万円
普通株式に係る当期純損失( )	2,263百万円	2,237百万円
期中平均株式数	21,143千株	20,115千株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額	-百万円	-百万円
普通株式増加数	-千株	-千株
(うち新株引受権)	(-千株)	(-千株)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式の概要	ストックオプション2種類。これ らの概要は、「第4 提出会社の状 況 1. 株式等の状況 (2)新株予約 権等の状況」に記載の通りであり ます。	ストックオプション2種類。これ らの概要は、「第4 提出会社の状 況 1. 株式等の状況 (2)新株予約 権等の状況」に記載の通りであり ます。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】  
【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	14,803	14,651	1.6	-
1年以内に返済予定の長期借入金	2,174	1,412	1.6	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	11	-	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	2,273	2,169	1.6	平成23年 ~平成27年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	-	49	-	平成23年 ~平成26年
その他有利子負債 預り保証金	212	216	0.8	-
計	19,464	18,510	-	-

- (注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。  
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。  
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。なお、その他有利子負債は、返済の期限を定めておりません。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	907	643	498	119
リース債務	11	11	11	14

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
	自平成21年4月1日 自平成21年6月30日	自平成21年7月1日 自平成21年9月30日	自平成21年10月1日 自平成21年12月31日	自平成22年1月1日 自平成22年3月31日
売上高(百万円)	5,615	6,870	7,475	8,689
税金等調整前四半期純利益 金額又は税金等調整前四半 期純損失金額( )(百万 円)	1,139	364	92	194
四半期純利益金額又は四半 期純損失金額( )(百万 円)	1,291	900	161	116
1株当たり四半期純利益金 額又は1株当たり四半期純 損失金額( )(円)	64.22	44.78	8.04	5.78

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,204	1,184
受取手形	1,063	1, 2 764
売掛金	2 8,114	2 5,750
商品及び製品	2,581	2,119
仕掛品	2,645	2,705
原材料及び貯蔵品	983	886
前渡金	319	115
前払費用	63	64
繰延税金資産	429	-
未収入金	2 1,094	2 855
関係会社短期貸付金	100	150
その他	265	322
貸倒引当金	80	115
流動資産合計	18,783	14,804
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 3,035	1 3,079
減価償却累計額	1,770	1,870
建物（純額）	1,265	1,208
構築物	1 860	1 860
減価償却累計額	383	420
構築物（純額）	477	440
機械及び装置	924	946
減価償却累計額	582	760
機械及び装置（純額）	342	186
車両運搬具	11	11
減価償却累計額	9	10
車両運搬具（純額）	2	0
工具、器具及び備品	4,309	4,514
減価償却累計額	3,673	3,940
工具、器具及び備品（純額）	636	574
土地	1 2,524	1 2,524
リース資産	-	61
減価償却累計額	-	2
リース資産（純額）	-	58
建設仮勘定	17	36
有形固定資産合計	5,264	5,030
無形固定資産		
特許権	12	10
ソフトウェア	849	771
ソフトウェア仮勘定	242	341
その他	17	17
無形固定資産合計	1,122	1,140

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1 154	1 127
関係会社株式	7,459	7,491
出資金	0	0
関係会社出資金	2,753	2,772
長期貸付金	12	4
株主、役員又は従業員に対する長期貸付金	6	9
破産更生債権等	38	39
長期前払費用	2	1
その他	1 379	1 376
貸倒引当金	39	40
投資その他の資産合計	10,767	10,782
<b>固定資産合計</b>	<b>17,155</b>	<b>16,953</b>
<b>資産合計</b>	<b>35,938</b>	<b>31,758</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	478	368
買掛金	2 1,663	2 2,063
短期借入金	1 10,505	1 10,094
1年内返済予定の長期借入金	1 2,088	1 1,243
リース債務	-	11
未払金	1,956	1,294
未払費用	180	183
未払法人税等	38	36
前受金	7	9
預り金	36	36
賞与引当金	488	503
製品保証引当金	45	36
その他	6	12
流動負債合計	17,496	15,894
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1 1,971	1 1,877
リース債務	-	49
繰延税金負債	-	2
退職給付引当金	907	1,006
その他	212	216
固定負債合計	3,091	3,151
<b>負債合計</b>	<b>20,587</b>	<b>19,045</b>

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,371	6,372
資本剰余金		
資本準備金	6,387	6,388
資本剰余金合計	6,387	6,388
利益剰余金		
利益準備金	72	72
その他利益剰余金		
別途積立金	555	555
繰越利益剰余金	3,533	887
利益剰余金合計	4,160	1,514
自己株式	1,565	1,565
株主資本合計	15,353	12,709
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2	3
評価・換算差額等合計	2	3
純資産合計	15,351	12,712
負債純資産合計	35,938	31,758

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
売上高	1 23,583	1 17,766
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	2,528	2,581
当期製品製造原価	1 15,542	1 10,818
当期商品仕入高	174	142
他勘定受入高	2 694	2 630
合計	18,940	14,172
他勘定振替高	3 189	3 137
商品及び製品期末たな卸高	2,581	2,119
売上原価合計	16,169	11,915
売上総利益	7,413	5,851
販売費及び一般管理費	4, 5 8,646	4, 5 7,822
営業損失( )	1,233	1,971
営業外収益		
受取利息	1 30	1 7
受取配当金	1 106	1 3
為替差益	141	-
受取手数料	-	3
受取地代家賃	11	11
その他	39	9
営業外収益合計	328	35
営業外費用		
支払利息	235	203
売上割引	37	39
為替差損	-	48
その他	43	18
営業外費用合計	316	309
経常損失( )	1,221	2,245
特別利益		
過年度出向人件費受入額	20	-
特別利益合計	20	-
特別損失		
固定資産除却損	6 1	6 4
投資有価証券評価損	-	37
関係会社株式評価損	181	-
その他	0	-
特別損失合計	183	42
税引前当期純損失( )	1,384	2,288
法人税、住民税及び事業税	52	71
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	71	-
法人税等調整額	223	429
法人税等合計	242	358
当期純損失( )	1,627	2,646

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	2,170	13.1	1,377	11.8
労務費		1,868	11.2	1,612	13.8
経費		12,571	75.7	8,678	74.4
当期総製造費用		16,609	100.0	11,668	100.0
期首仕掛品たな卸高	2	2,426		2,645	
他勘定受入高		182		99	
合計		19,218		14,412	
期末仕掛品たな卸高	3	2,645		2,705	
他勘定振替高		1,031		888	
当期製品製造原価		15,542		10,818	

原価計算の方法

原価計算の方法は、製品別単純総合原価計算法であり、期中は予定原価を用い、原価差額は期末において製品、仕掛品、売上原価等に配賦しております。

原価計算の方法

同左

1. 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度	当事業年度
減価償却費(百万円)	535	557
外注加工費(百万円)	11,312	7,567

2. 他勘定受入高の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度	当事業年度
製品勘定からの受入(百万円)	182	99
合計(百万円)	182	99

3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度	当事業年度
有償支給(百万円)	570	316
売上原価(百万円)	388	347
その他(百万円)	72	224
合計(百万円)	1,031	888

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	6,371	6,371
当期変動額		
新株の発行	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	6,371	6,372
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	6,387	6,387
当期変動額		
新株の発行	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	6,387	6,388
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	6,387	6,387
当期変動額		
新株の発行	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	6,387	6,388
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	72	72
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	72	72
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	555	555
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	555	555
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	5,458	3,533
当期変動額		
剰余金の配当	296	-
当期純損失( )	1,627	2,646
当期変動額合計	1,924	2,646
当期末残高	3,533	887
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	6,085	4,160
当期変動額		
剰余金の配当	296	-
当期純損失( )	1,627	2,646
当期変動額合計	1,924	2,646
当期末残高	4,160	1,514



	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<b>自己株式</b>		
前期末残高	10	1,565
当期変動額		
自己株式の取得	1,555	-
当期変動額合計	1,555	-
当期末残高	1,565	1,565
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	18,833	15,353
当期変動額		
新株の発行	-	1
剰余金の配当	296	-
当期純損失( )	1,627	2,646
自己株式の取得	1,555	-
当期変動額合計	3,479	2,644
当期末残高	15,353	12,709
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	10	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	13	6
当期変動額合計	13	6
当期末残高	2	3
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	10	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	13	6
当期変動額合計	13	6
当期末残高	2	3
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	18,844	15,351
当期変動額		
新株の発行	-	1
剰余金の配当	296	-
当期純損失( )	1,627	2,646
自己株式の取得	1,555	-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	13	6
当期変動額合計	3,493	2,638
当期末残高	15,351	12,712

【重要な会計方針】

項 目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>商品・製品・原材料・仕掛品 主として総平均法(仕掛品の一部は個別法)による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。</p> <p>貯蔵品 最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。</p> <p>(会計方針の変更) 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、総平均法による原価法によっておりましたが、当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)が適用されたことに伴い、総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。 これにより、当事業年度の営業損失、経常損失及び税引前当期純損失が122百万円増加しております。</p>	<p>商品・製品・原材料・仕掛品 同左</p> <p>貯蔵品 同左</p>

項 目	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法（ただし、平成10年4月1日以降、新たに取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。 なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。 （追加情報） 機械装置の耐用年数につきましては、法人税法の改正を契機として当事業年度より見直しを行っております。 これにより当事業年度の営業損失、経常損失、税引前当期純損失はそれぞれ4百万円増加しております。</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法により、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売収益（見込有効期間5年）に基づく償却方法によっております。</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（残価保証の取決めのあるものについては、当該残価保証額）とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(4) 長期前払費用 均等償却によっております。</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p> <p>(4) 長期前払費用 同左</p>
4. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p>

項 目	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
	<p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(4) 製品保証引当金 製品の無償補修費用の支出に備えるため、売上高に対する過去の支出割合に基づき必要額を計上しております。</p>	<p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。 なお、これによる営業損失、経常損失及び税引前当期純損失に与える影響はありません。 また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は51百万円であります。</p> <p>(4) 製品保証引当金 同左</p>
5. 収益及び費用の計上方法		<p>売上高及び売上原価の計上基準</p> <p>イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）</p> <p>ロ その他の工事 工事完成基準</p> <p>(会計方針の変更) 工事契約に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、当事業年度より、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p>

項 目	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
		これにより、売上高は322百万円増加し、営業損失、経常損失、税引前当期純損失はそれぞれ132百万円減少しております。
6 . ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 また、為替予約について振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップについて、特例処理の要件を満たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 金利スワップ、為替予約 ヘッジ対象 借入金の利息、外貨建営業債権債務、外貨建予定取引</p> <p>(3) ヘッジ方針 為替の変動に伴う、キャッシュ・フローの変動リスクの軽減を目的に為替に係るデリバティブ取引を、金利の変動に伴う、キャッシュ・フローの変動リスクの軽減を目的に金利に係るデリバティブ取引を行っております。 実需に基づくものを対象としてデリバティブ取引を行っており、投機目的のデリバティブ取引は行っておりません。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。 ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。 また、通貨関連のデリバティブ契約の締結時に、リスク管理方針に従って外貨建による同一通貨、同一金額で同一期日の為替予約等をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
7 . その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>(1) 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p>	<p>(1) 消費税等の会計処理 同左</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 同左</p>

## 【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
(リース取引に関する会計基準の適用)	

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する事業年度から適用することになったことに伴い、当事業年度からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証の取決めのあるものについては、当該残価保証額)とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。これにより営業損失、経常損失及び税引前当期純損失に与える影響はありません。</p>	

【表示方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(貸借対照表) 「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前事業年度において、「商品」「製品」「原材料」「貯蔵品」として掲記されていたものは、当事業年度から「商品及び製品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、当事業年度の「商品及び製品」及び「原材料及び貯蔵品」に含まれる「商品」「製品」「原材料」「貯蔵品」は、それぞれ156百万円、2,424百万円、869百万円、113百万円です。</p>	<p>(損益計算書) 前事業年度まで営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取手数料」は当事業年度において営業外収益の100分の10を超えることとなったため区分掲記しております。なお、前事業年度の営業外収益の「その他」に含まれる「受取手数料」は3百万円です。</p>

## 【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)			当事業年度 (平成22年3月31日)		
1 担保資産及び担保付債務			1 担保資産及び担保付債務		
担保に供している資産は次のとおりであります。			担保に供している資産は次のとおりであります。		
建物	1,254百万円		受取手形	30百万円	
構築物	477百万円		建物	1,199百万円	
土地	2,465百万円		構築物	423百万円	
投資有価証券	7百万円		土地	2,518百万円	
投資その他の資産「その他」	73百万円		投資有価証券	3百万円	
合計	4,279百万円		投資その他の資産「その他」	73百万円	
			合計	4,248百万円	
担保付債務は次のとおりであります。			担保付債務は次のとおりであります。		
短期借入金	4,365百万円		短期借入金	5,074百万円	
1年内返済予定の長期借入金	1,530百万円		1年内返済予定の長期借入金	896百万円	
長期借入金	1,475百万円		長期借入金	1,339百万円	
合計	7,371百万円		合計	7,310百万円	
2 関係会社項目			2 関係会社項目		
関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。			関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。		
売掛金	3,480百万円		受取手形及び売掛金	1,827百万円	
未収入金	862百万円		未収入金	658百万円	
買掛金	1,399百万円		買掛金	1,739百万円	
3 保証債務			3 保証債務		
次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。			次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。		
保証先	金額(百万円)	内容	保証先	金額(百万円)	内容
A&D KOREA Limited	177 (2,525百万韓ウォン)	借入債務	A&D KOREA Limited	197 (2,400百万韓ウォン)	借入債務
A&D INSTRUMENTS LIMITED	51 (369千英ポンド)	借入債務	A&D INSTRUMENTS LIMITED	0 (5千英ポンド)	借入債務
愛安德電子(深?)有限公司	196 (2,000千米ドル)	借入債務	愛安德電子(深?)有限公司	465 (5,000千米ドル)	借入債務
A&D TECHNOLOGY INC.	884 (9,007千米ドル)	借入債務	A&D TECHNOLOGY INC.	772 (8,300千米ドル)	借入債務
A&D RUS CO., LTD.	1,218 (420百万露ルーブル)	借入債務	A&D RUS CO., LTD.	1,327 (420百万露ルーブル)	借入債務
(株)サム電子機械	132	借入債務	(株)サム電子機械	30	借入債務
(株)ベスト測器	148	借入債務	(株)ベスト測器	715	借入債務
合計	2,809	-	合計	3,509	-

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行13行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当期末の借入未実行残高は次のとおりであります。	4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行13行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当期末の借入未実行残高は次のとおりであります。
当座貸越極度額の総額 6,900百万円	当座貸越極度額の総額 6,300百万円
借入実行残高 6,260百万円	借入実行残高 5,360百万円
差引額 640百万円	差引額 940百万円

## (損益計算書関係)

前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。	1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。
売上高 9,616百万円	売上高 5,850百万円
外注加工費 11,066百万円	外注加工費 7,378百万円
受取利息 25百万円	上記のほか、関係会社との取引により発生した営業外収益の合計が営業外収益の総額の100分の10を超えており、その金額は8百万円であります。
受取配当金 105百万円	2 他勘定受入高は主として保守売上原価であり、その内訳は次のとおりであります。
	材料費 280百万円
	当期製品製造原価 347百万円
	その他 2百万円
	合計 630百万円
2 他勘定受入高は主として保守売上原価であり、その内訳は次のとおりであります。	3 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。
材料費 301百万円	当期製品製造原価 99百万円
当期製品製造原価 388百万円	その他 38百万円
その他 4百万円	合計 137百万円
合計 694百万円	4 販売費に属する費用のおおよその割合は33%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は67%であります。
3 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。	主要な費目及び金額は次のとおりであります。
当期製品製造原価 182百万円	貸倒引当金繰入額 71百万円
その他 6百万円	給料手当 1,453百万円
合計 189百万円	賞与引当金繰入額 163百万円
4 販売費に属する費用のおおよその割合は33%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は67%であります。	製品保証引当金繰入額 45百万円
主要な費目及び金額は次のとおりであります。	退職給付費用 102百万円
貸倒引当金繰入額 71百万円	減価償却費 61百万円
給料手当 1,453百万円	研究開発費 4,510百万円
賞与引当金繰入額 163百万円	5 研究開発費の総額
製品保証引当金繰入額 45百万円	一般管理費に含まれる研究開発費
退職給付費用 102百万円	4,510百万円
減価償却費 61百万円	6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。
研究開発費 4,510百万円	機械及び装置 0百万円
5 研究開発費の総額	工具、器具及び備品 1百万円
一般管理費に含まれる研究開発費	合計 1百万円
3,991百万円	6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。
6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。	工具、器具及び備品 4百万円
工具、器具及び備品 4百万円	合計 4百万円
合計 4百万円	



(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	12	2,200	-	2,213
合計	12	2,200	-	2,213

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、自己株式立会外取引による増加2,200千株等によるものであります。

当事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	2,213	-	-	2,213
合計	2,213	-	-	2,213

## (リース取引関係)

前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)				当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)			
ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引  所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。  (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 主として計測・計量機器事業における研究開発設備(機械及び装置)であります。 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法(3)リース資産」に記載の通りであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。  (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額(百万円)		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額(百万円)
機械及び装置	280	138	142	機械及び装置	280	190	90
工具、器具及び備品	180	98	82	工具、器具及び備品	180	132	48
ソフトウエア	230	141	88	ソフトウエア	230	187	42
合計	692	378	313	合計	692	510	181
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。 (2) 未経過リース料期末残高相当額 1年内 132百万円 1年超 181百万円 合計 313百万円				同左  (2) 未経過リース料期末残高相当額 1年内 108百万円 1年超 72百万円 合計 181百万円			
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。 (3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料 137百万円 減価償却費相当額 137百万円				同左  (3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料 132百万円 減価償却費相当額 132百万円			
(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左			

## (有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日)

子会社株式で時価のあるものはありません。

関連会社株式で時価のあるもの

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
関連会社株式	71	71	-

当事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
関連会社株式	71	255	183

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額（百万円）
子会社株式	7,405
関連会社株式	14

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

（税効果会計関係）

前事業年度 （平成21年3月31日）	当事業年度 （平成22年3月31日）
1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産（百万円）	繰延税金資産（百万円）
たな卸資産評価損否認	たな卸資産評価損否認
71	105
貸倒引当金損金算入限度超過額	貸倒引当金損金算入限度超過額
36	56
投資有価証券評価損否認	投資有価証券評価損否認
103	45
未払費用否認	関係会社株式評価損否認
6	73
未払法定福利費否認	未払費用否認
23	12
賞与引当金否認	未払法定福利費否認
197	24
製品保証引当金否認	賞与引当金否認
18	203
退職給付引当金否認	製品保証引当金否認
367	14
前渡金否認	退職給付引当金否認
26	407
繰越欠損金	繰越欠損金
524	1,047
その他有価証券評価差額金	その他
1	13
その他	繰延税金資産小計
9	2,005
繰延税金資産小計	評価性引当額
1,385	2,005
評価性引当額	繰延税金資産合計
956	-
繰延税金資産合計	繰延税金負債
429	その他有価証券評価差額金
繰延税金負債合計	2
-	繰延税金負債合計
繰延税金資産の純額	2
429	繰延税金負債の純額
	2
2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因	2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因
税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。	税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。

( 1株当たり情報 )

前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 763円27銭	1株当たり純資産額 631円91銭
1株当たり当期純損失金額 76円97銭	1株当たり当期純損失金額 131円55銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額	15,351百万円	12,712百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	-百万円	-百万円
普通株式に係る期末の純資産額	15,351百万円	12,712百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数	20,112千株	20,118千株

2. 1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり当期純損失金額		
当期純損失( )	1,627百万円	2,646百万円
普通株主に帰属しない金額	-百万円	-百万円
普通株式に係る当期純損失( )	1,627百万円	2,646百万円
期中平均株式数	21,143千株	20,115千株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額	-百万円	-百万円
普通株式増加数	-千株	-千株
(うち新株引受権)	(-千株)	(-千株)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	ストックオプション2種類。これらの概要は、「第4 提出会社の状況 1. 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」に記載の通りであります。	ストックオプション2種類。これらの概要は、「第4 提出会社の状況 1. 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」に記載の通りであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	OPAL-RT Tech. Inc.	9,583	54
		(株)さいたまソフトウェアセンター	400	20
		(株)クロスウェル	500	17
		(株)チノー	38,646	9
		トラスコ中山(株)	3,700	5
		杉本商事(株)	5,750	5
		ヤマト科学(株)	32,000	3
		(株)りそなホールディングス	2,600	3
		(株)武蔵野銀行	909	2
		(株)電響社	3,218	1
		その他10銘柄	15,400	5
		合計	112,707	127

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	3,035	44	-	3,079	1,870	100	1,208
構築物	860	-	-	860	420	36	440
機械及び装置	924	22	-	946	760	178	186
車両運搬具	11	-	-	11	10	1	0
工具、器具及び備 品	4,309	294	88	4,514	3,940	351	574
土地	2,524	-	-	2,524	-	-	2,524
リース資産	-	61	-	61	2	2	58
建設仮勘定	17	87	68	36	-	-	36
有形固定資産計	11,682	509	157	12,034	7,004	670	5,030
無形固定資産							
特許権	14	-	-	14	4	1	10
ソフトウェア	1,998	285	224	2,059	1,287	363	771
ソフトウェア仮 勘定	242	305	207	341	-	-	341
その他	17	-	-	17	0	0	17
無形固定資産計	2,273	590	431	2,433	1,292	365	1,140
長期前払費用	4	-	-	4	2	0	1

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

工具器具及び備品 金型 163百万円  
ソフトウェア 市場販売目的のソフトウェア制作費 208百万円

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	119	155	0	118	155
賞与引当金	488	503	488	-	503
製品保証引当金	45	36	45	-	36

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、洗替戻入によるものであります。

## (2)【主な資産及び負債の内容】

## 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	6
預金の種類	
当座預金	294
普通預金	478
定期預金	402
別段預金	0
郵便振替貯金	2
小計	1,178
合計	1,184

## 受取手形

## (イ)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
宇野(株)	157
西野産業(株)	94
東海理機(株)	87
(株)ヤナギサワ	83
(株)エル・エム・エス	51
その他	289
合計	764

## (ロ)期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成22年 4月	54
5月	95
6月	196
7月	270
8月	131
9月	14
合計	764

売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
A&D RUS CO.,LTD.	1,185
A&D ENGINEERING, INC.	392
DMT-CENTER Limited Liability Company	351
SANDIA NATIONAL LABORATORIES	217
BOSCH+SOHN GMBH U.CO.KG	203
その他	3,399
合計	5,750

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) (A) + (D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	2 (B) 365
8,114	17,952	20,317	5,750	77.9	140.9

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

商品及び製品

品目	金額(百万円)
商品	
計測・計量機器	112
医療・健康機器	21
小計	134
製品	
計測・計量機器	1,448
医療・健康機器	536
小計	1,985
合計	2,119

仕掛品

品目	金額(百万円)
計測・計量機器	2,681
医療・健康機器	24
合計	2,705



原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
原材料	
計測・計量機器	687
医療・健康機器	96
小計	783
貯蔵品	
補助材料	45
販促品	32
修理用部品	24
小計	103
合計	886

関係会社株式

相手先	金額(百万円)
(株)ベスト測器	1,476
A&D TECHNOLOGY INC.	1,124
(株)サム電子機械	1,059
A&D ENGINEERING, INC.	985
(株)オリエンテック	963
その他	1,882
合計	7,491

関係会社出資金

相手先	金額(百万円)
A&D RUS Co.Ltd.	2,215
愛安德電子(深?)有限公司	242
A&D Technology Trading(Shanghai) Co.,Ltd	199
A&D Europe Gmbh	108
A&D TRADING (H.K.) Co.,Ltd.	7
合計	2,772

支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
緑屋電気(株)	114
(株)ジュパ	41
昭和電器(株)	35
(有)薩摩製作所	24
富士ソフト(株)	10
その他	141
合計	368

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成22年 4月	84
5月	105
6月	76
7月	35
8月	67
合計	368

買掛金

相手先	金額(百万円)
愛安德電子(深?)有限公司	777
リトラ(株)	445
研精工業(株)	222
(株)オリエンテック	192
A&D KOREA LIMITED	83
その他	342
合計	2,063

## 短期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)埼玉りそな銀行	3,100
(株)足利銀行	1,886
(株)三井住友銀行	910
農林中央金庫	900
(株)三菱東京UFJ銀行	872
その他	2,425
合計	10,094

## 長期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)埼玉りそな銀行	698
(株)足利銀行	520
(株)商工組合中央金庫	264
(株)三井住友銀行	135
(株)みずほ銀行	96
その他	163
合計	1,877

## (3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL <a href="http://www.aandd.co.jp">http://www.aandd.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第32期）（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）平成21年6月26日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成21年6月26日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第33期第1四半期）（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）平成21年8月13日関東財務局長に提出。

（第33期第2四半期）（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）平成21年11月13日関東財務局長に提出。

（第33期第3四半期）（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）平成22年2月12日関東財務局長に提出。

(4) 四半期報告書の訂正報告書及び確認書

平成21年6月23日関東財務局長に提出。（第32期第3四半期）（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）の四半期報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月25日

株式会社エー・アンド・デイ  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	山本 守
指定社員 業務執行社員	公認会計士	福田 厚
指定社員 業務執行社員	公認会計士	栗栖 孝彰

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エー・アンド・デイの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エー・アンド・デイ及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社エー・アンド・デイの平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社エー・アンド・デイが平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社(有価証券報告書提出会社)が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月24日

株式会社エー・アンド・デイ  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	福田 厚
指定社員 業務執行社員	公認会計士	栗栖 孝彰

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エー・アンド・デイの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エー・アンド・デイ及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社エー・アンド・デイの平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社エー・アンド・デイが平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、当社(有価証券報告書提出会社)が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

平成21年6月25日

株式会社エー・アンド・デイ  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	山本 守
指定社員 業務執行社員	公認会計士	福田 厚
指定社員 業務執行社員	公認会計士	栗栖 孝彰

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エー・アンド・デイの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第32期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エー・アンド・デイの平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、当社(有価証券報告書提出会社)が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券提出会社)が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成22年6月24日

株式会社エー・アンド・デイ  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	福田 厚
指定社員 業務執行社員	公認会計士	栗栖 孝彰

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エー・アンド・デイの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エー・アンド・デイの平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、当社(有価証券報告書提出会社)が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券提出会社)が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。